第５編　地区別構想（５小学校区）

1. 地区別構想とは

(1)地区別構想の趣旨と位置づけ

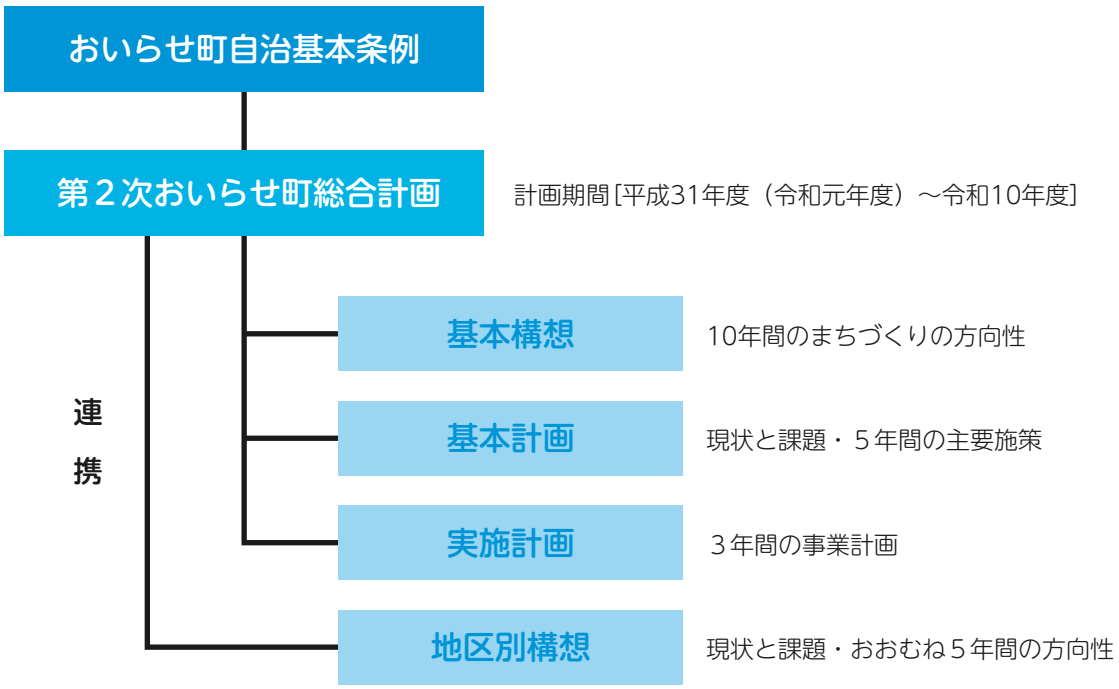
平成18年におらせ町が誕生して以降、まちづくりをどのように進めていくかという方向性を示すものとして、平成20年３月に「おらせ町自治基本条例」が制定されました。

これは、「地域のことは地域が主体となって考え、行動する」という自治の原点に立ち、町民・議会・行政がともに手をとり合って今後の課題に取り組んでいくという意思表示です。

しかし、行政主導で施策を決めるという旧来型の手法から、町民が「自分のまち」について考え、まちづくりに主体的に関わる手法への移行は容易ではありません。

そのため、第２次おらせ町総合計画では、自治基本条例で目指すまちづくりの姿を具現化する一つの方策として、町民それぞれが自分たちの住む地区のことを見つめ直し、これからどのようにしていきたいかを考え、行動に移すきっかけとするため、地域の課題や目指す姿を掲げた地区別構想を策定し、総合計画に位置付けました。

地区別構想は、第２次総合計画に連なる計画として位置づけ、計画期間を次のように定めます。



(2)地区別構想の役割

総合計画は、基本的なまちづくりの方向性を示すものであり、全町の画一的な計画となっています。町には５つの小学校区があり、それぞれ異なる特徴や課題を有しているため、「地区別構想」を作成することでより一層の効果を生む可能性があります。

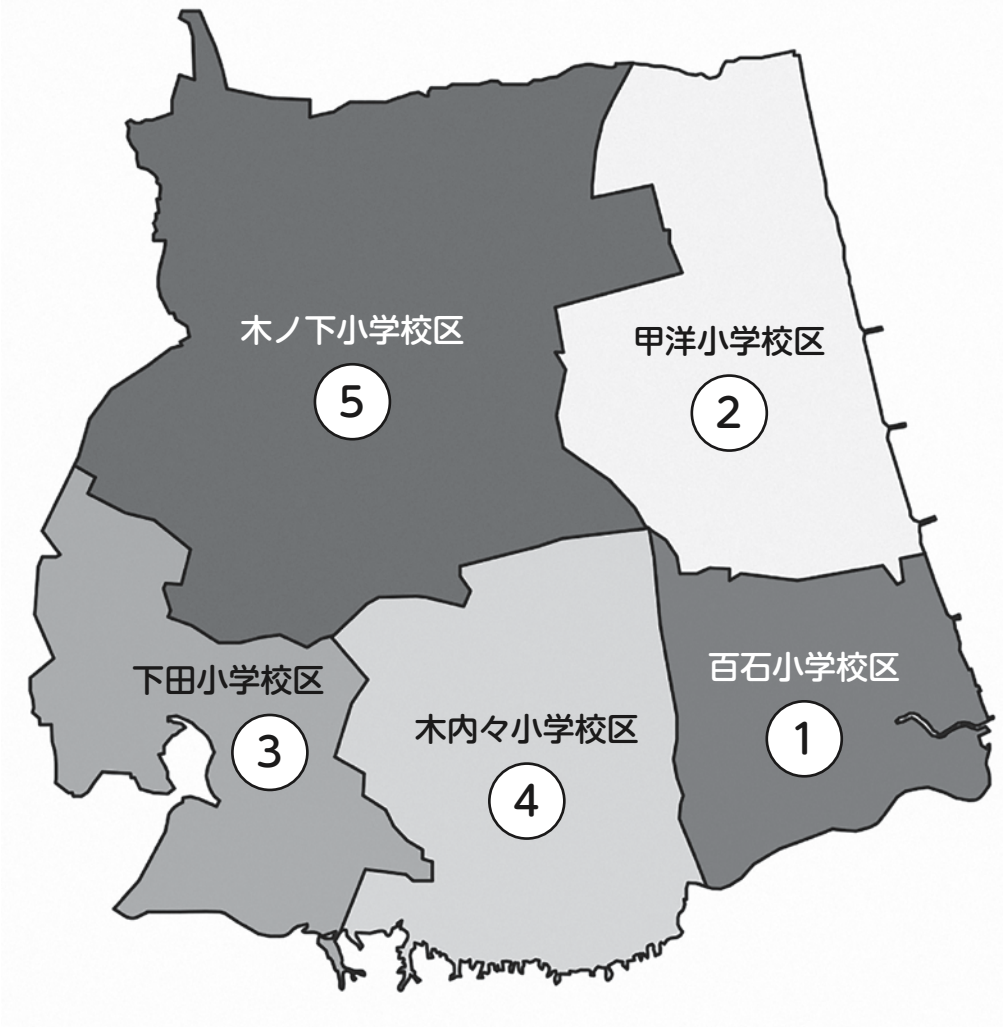
「地区別構想」は、各地区の特徴を活かし、異なる課題に対応していくために何を優先して課題解決していくべきか「町民が自ら考え、行動に移していくための指針」としての役割となるものです。平成29年度の前期基本計画策定時から住民懇談会を開催し、小学校区ごとに「主な課題」と「地域の課題を解決するための取組（自助・共助)」を話し合っています。

前期基本計画期間［平成31年度（令和元年度）～令和５年度］では、地区別構想の推進母体となる「地域づくり協議会（住民自治組織)」を立ち上げるため「地域づくり座談会」を開催し、地区ごとに意見交換を行いました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、町内会等の地域コミュニティ活動が大きく制限された（６ページ参照）ため、地区別構想を進めるには厳しい状況となりました。

後期基本計画期間［令和６年度～令和10年度］では、再度、小学校区ごとの「主な課題」、「地域の課題を解決するための取組（自助・共助)」を確認するとともに、新たな課題等も把握しながら、今後の地区ごとの方向性を話し合い、課題解決していくことが重要です。

(3)地区別構想の策定単位

地区別構想は、各種活動をするにあたり、必要な組織や人数が適度に揃う範囲であり、日頃からの関わりやつながりを考慮し、５つの小学校区ごとに策定しています。



No.	小学校区	行　政　区
1	百石小学校区	一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、六丁目、上新町、新町、中央町、八幡町、肴町、大工町、七軒町、藤ヶ森、堀切川、川口、明神下、横道、日ヶ久保、根岸、黒坂、洋光台、下前田、苗振谷地、向坂
2	甲洋小学校区	深沢、一川目、二川目
3	下田小学校区	本村、鍋久保、洗平、新敷、阿光坊、錦ヶ丘
4	木内々小学校区	三本木、三田、木内々、間木、染屋、木崎、秋堂、中野平、曙、有楽町
5	木ノ下小学校区	木ノ下、鶉久保、向山、豊原、豊栄、苫米地、住吉町、若葉、緑ヶ丘、青葉

(4)地区別構想の現状

前期基本計画期間では、地区別構想の実現に向けた受け皿として、地域づくり協議会（住民自治組織）の立上の支援を実施してきました。

地域づくり協議会とは…

地域づくり協議会とは、一つの町内会や団体等で対応が難しい課題や問題を掘り起こして、地域で話し合い、責任を持って解決していくことで、自立した地域づくりを目指すための組織です。

【事業と役割】

●町内会で対応できない課題の解決や町内会を超えた連携が必要な事業等、町内会と異なる広域的な役割を担います。基本的に同小学校区内の隣接する３町内会以上かつ人口２千人以上で組織できます。

●地区の町民が全員参加のもと、主に次の事業を実施します。

○　自発的な地域コミュニティ活動の企画・実施

○　地区の特性に合ったまちづくりを進める上での計画の策定

（次の中からできるものを登載します。）

①防犯、交通安全、災害等の安全・安心対策

②自然の保護と環境整備

③保健、福祉、スポーツ、レクリエーション、教育、文化の推進

④生活基盤の整備

⑤世代間の交流

○　地区内に存在する町内会や各団体の連携・調整及び情報交換の場の提供

○　地区内の話題提供とお知らせや情報発信のための情報紙の発行

○　拠点施設として使用する公共的施設の管理・運営

○　地区内に存在する町内会や各団体への事業に対する助成金等の調整

○　地域リーダーの育成や教育等の研修実施

○　地区と行政の相互協力

【町内の地域づくり協議会】

現在立ち上がっている地域づくり協議会は、次のとおりです。

住民自治組織名構成	小学校区	地　　区
木内々小学校区地域づくり協議会	木内々小学校区	三本木、三田、木内々、間木、染屋、木崎、秋堂、中野平、曙、有楽町
古間木山地域づくり協議会	木ノ下小学校区（北側）	住吉町、若葉、緑ヶ丘、青葉

その他の地区に対しても、地域づくり講座や地域づくり座談会を開催し、意見交換や学習の場を提供してきました。

時　期	講座・座談会	対象地区	内　　容
令和元年度	地域づくり講座	①堀切川・川口・明神下・横道（百石小学校区） ②向山・豊原・豊栄・苫米地（木ノ下小学校区）	テーマ：これからの地域づくりのヒント
	地域づくり座談会	深沢、一川目、二川目（甲洋小学校区）	地域課題の共有や意見交換
令和２年度	地域づくり座談会	①本村、鍋久保、洗平、新敷、阿光坊、錦ヶ丘（下田小学校区） ②一丁目～五丁目、上新町、新町、中央町、八幡町、肴町、大工町、七軒町（百石小学校区）	地域課題の共有や意見交換
令和３年度	地域づくり座談会	本村、鍋久保、洗平、新敷、錦ヶ丘、阿光坊（下田小学校区）	テーマ：下田小学校（地域）を残していくためにできることを考える
		一丁目～五丁目、上新町、新町、中央町、八幡町、肴町、大工町、七軒町（百石小学校区）	テーマ：町内会の活動と運営方法を考える
		根岸、黒坂、日ヶ久保、洋光台、向坂（百石小学校区）	地域課題の共有や意見交換
令和４年度	地域づくり座談会	根岸、黒坂、日ヶ久保、洋光台、向坂（百石小学校区）	テーマ：町内会活動が続いていくための方法を考える
		六丁目、七軒町、藤ヶ森、下前田、苗振谷地（百石小学校区）	地域課題の共有や意見交換

2. 地区別構想

(1)百石小学校区

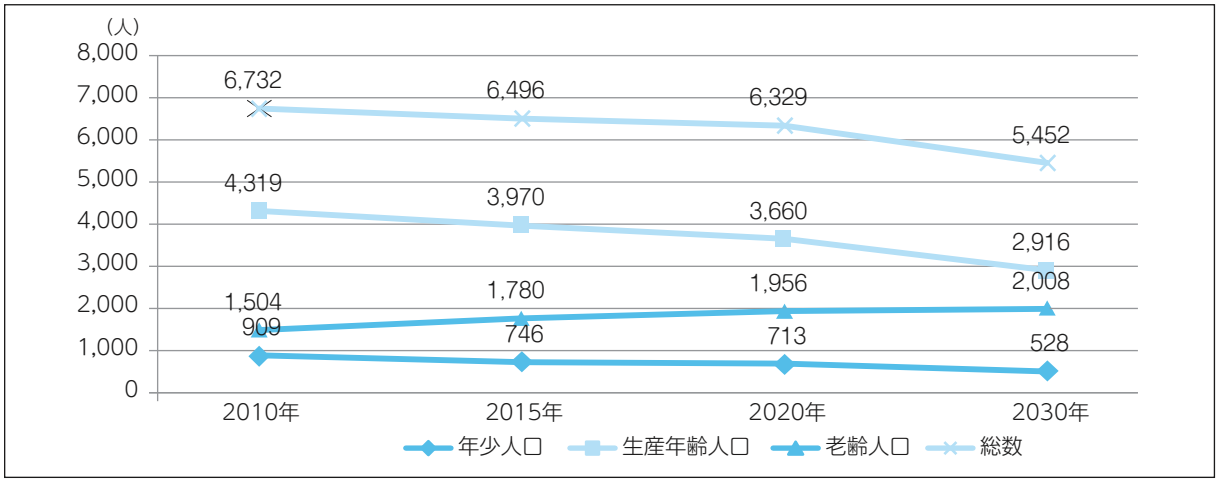
① 地域の概況

百石小学校区は、町の南東に位置し、八戸市と隣接しています。奥入瀬川、明神川の河口を有しており、河口付近に百石漁港、その北部に百石工業団地があります。河口から西に進むと、古くからの住宅と農用地が混在した地域があります。

国道45号沿いには、商店街が形成されており、毎年９月においらせ百石まつりが開催されています。地区の南側には、国保おいらせ病院、分庁舎や金融機関、百年以上の歴史を持つ酒造工場があり、地区の北側にはいちょう公園とそこに接するように洋光台団地が整備されています。地区内には、「百石えんぶり」、「日ヶ久保虎舞」、「八幡宮大神楽」、「八幡宮大権現」、「南部百石駒踊り」等の郷土芸能があり、それらを伝えていく取組も続けられています。

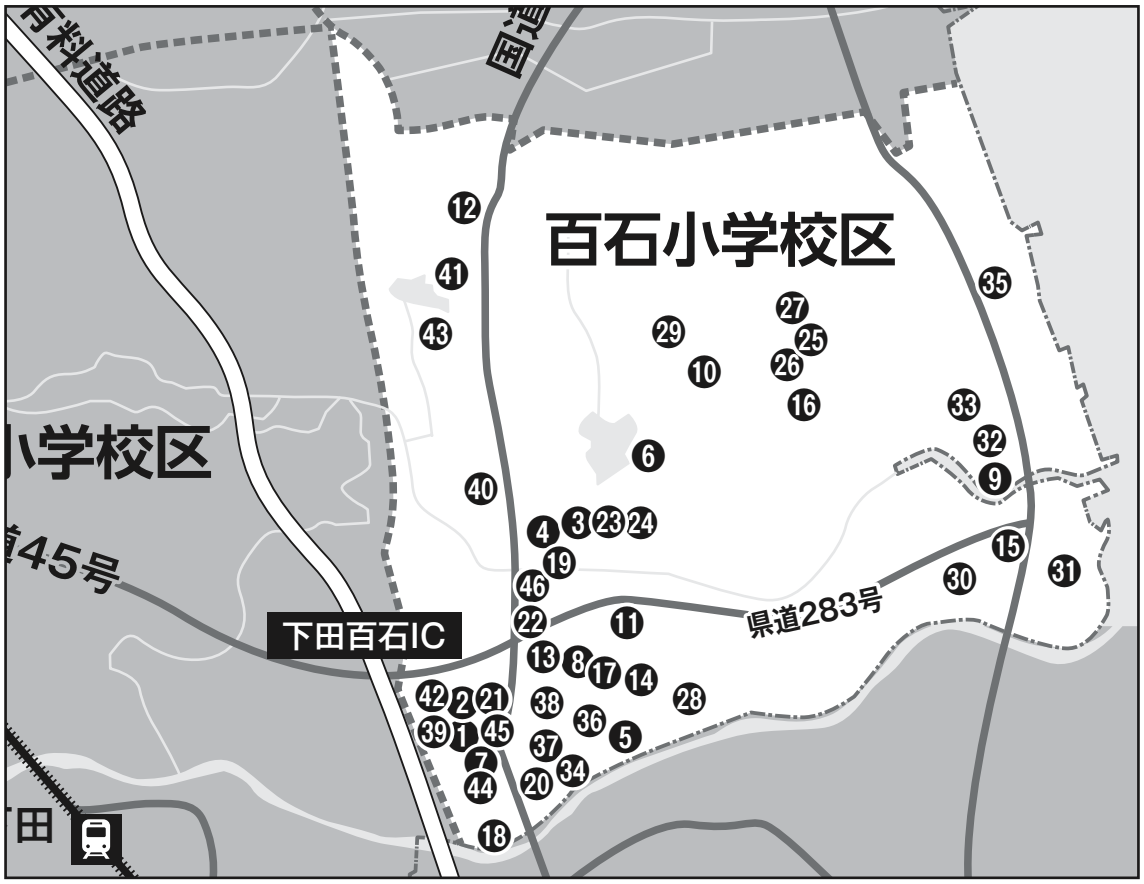
◆人口推移及び推計と高齢化率

百石小学校区の人口は、2010年（平成22年）から2020年（令和２年）の10年間で403人減少しました。今後もこの傾向が続くと、2030年（令和12年）には、人口が5,452人にまで減少することが予測されます。また、少子高齢化も進んでおり、2020年（令和２年）に30.9%の高齢化率が、2030年（令和12年）には36.8%になる見通しです。



年齢３区分 ＼ 年	2010年	2015年	2020年	2030年	増減数（2010年⇒2030年）	増減率（2010年⇒2030年）
年少人口(0～14歳)	13.5%	11.5%	11.3%	9.7%	−381人	−3.8ポイント
生産年齢人口(15～64歳)	64.1%	61.0%	57.8%	53.5%	−1,403人	−10.7%ポイント
老年人口(65歳以上)	22.4%	27.5%	30.9%	36.8%	+504人	+14.5%ポイント

② 地域の主な公共的施設（百石小学校区）



		百石小学校区
庁舎・公民館等	❶	おいらせ町役場分庁舎
	❷	東公民館
	❸	みなくる館・図書館
	❹	大山将棋記念館
	❺	観光PRセンター　味祭館
	❻	いちょう公園
	❼	中央公園
	❽	東児童公園
	❾	明神山公園
	❿	洋光台南公園
学校・児童館・保育園等	⓫	百石小学校
	⓬	百石中学校
	⓭	百石高等学校
	⓮	あゆみ保育園
	⓯	川口保育園
	⓰	百石幼稚園
	⓱	あゆみ児童クラブ
	⓲	国民健康保険おいらせ病院
医療・保険・福祉施設等	⓳	医療法人正恵会　石田温泉病院
	⓴	木村歯科医院
	㉑	昆歯科医院
	㉒	スマイル歯科
	㉓	地域福祉センターいきいき館

		百石小学校区
医療・保健・福祉施設等	㉔	福祉プラザのびのび館
	㉕	特別養護老人ホーム百石荘
	㉖	グループホームたんぽぽ
	㉗	グループホームあゆみの里
町内会集会施設等	㉘	藤ヶ森地区生活館
	㉙	洋光台地区コミュニティセンター
	㉚	堀切川地区コミュニティセンター
	㉛	川口地区コミュニティセンター
	㉜	明神山コミュニティ防災センター
	㉝	明神山防災タワー
	㉞	本町地区コミュニティ消防センター
	㉟	横道生活館
	㊱	新町集会所
	㊲	大工町集会所
	㊳	七軒町集会所
	㊴	上新町集会所
	㊵	根岸いちょう会館
	㊶	黒坂集会所
	㊷	苗振谷地生活館
	㊸	向坂集会所
金融機関等	㊹	百石郵便局
	㊺	青森銀行　百石支店
	㊻	JA十和田おいらせ　百石支店

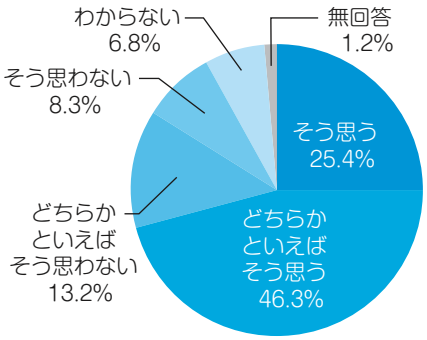
③ 地域の意向（百石小学校区）

◆アンケート調査

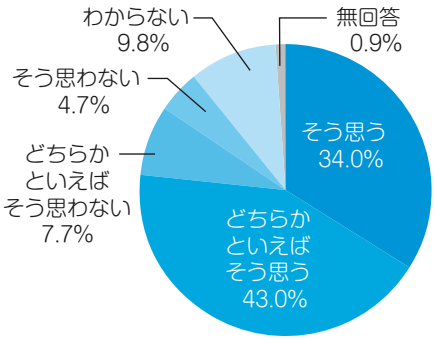
町民アンケート調査

Q．おいらせ町には、長く住み続けられる魅力があると思いますか。

平成29年調査（回答数＝205）



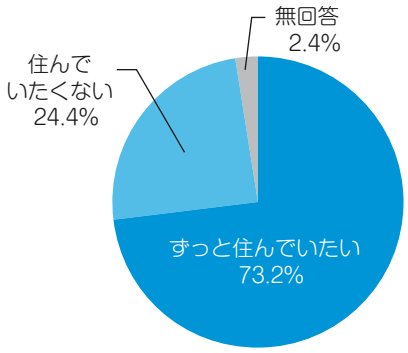
令和４年調査（回答数＝235）



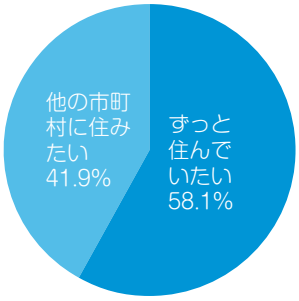
小学生まちづくりアンケート調査

Q．大人になってもおいらせ町にずっと住んでいたいと思いますか。

平成29年調査（回答数＝41）



令和４年調査（回答数＝31）

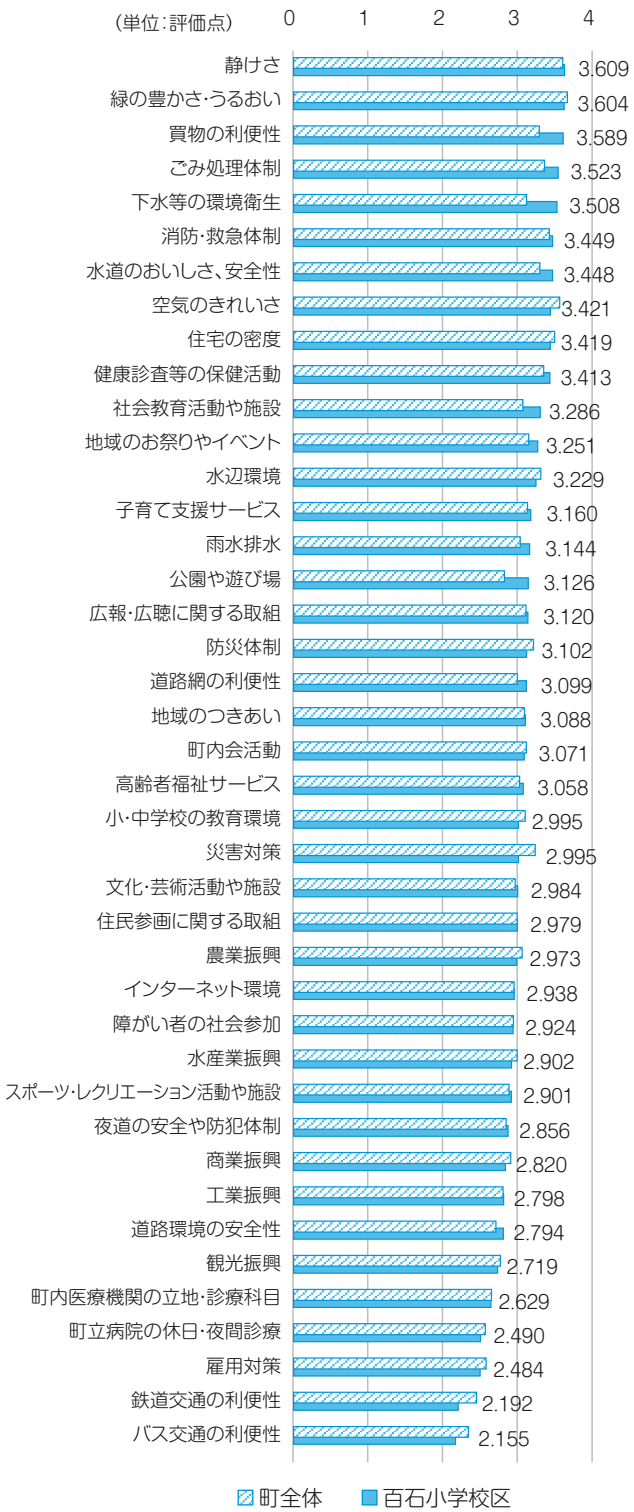


《百石小学校区》

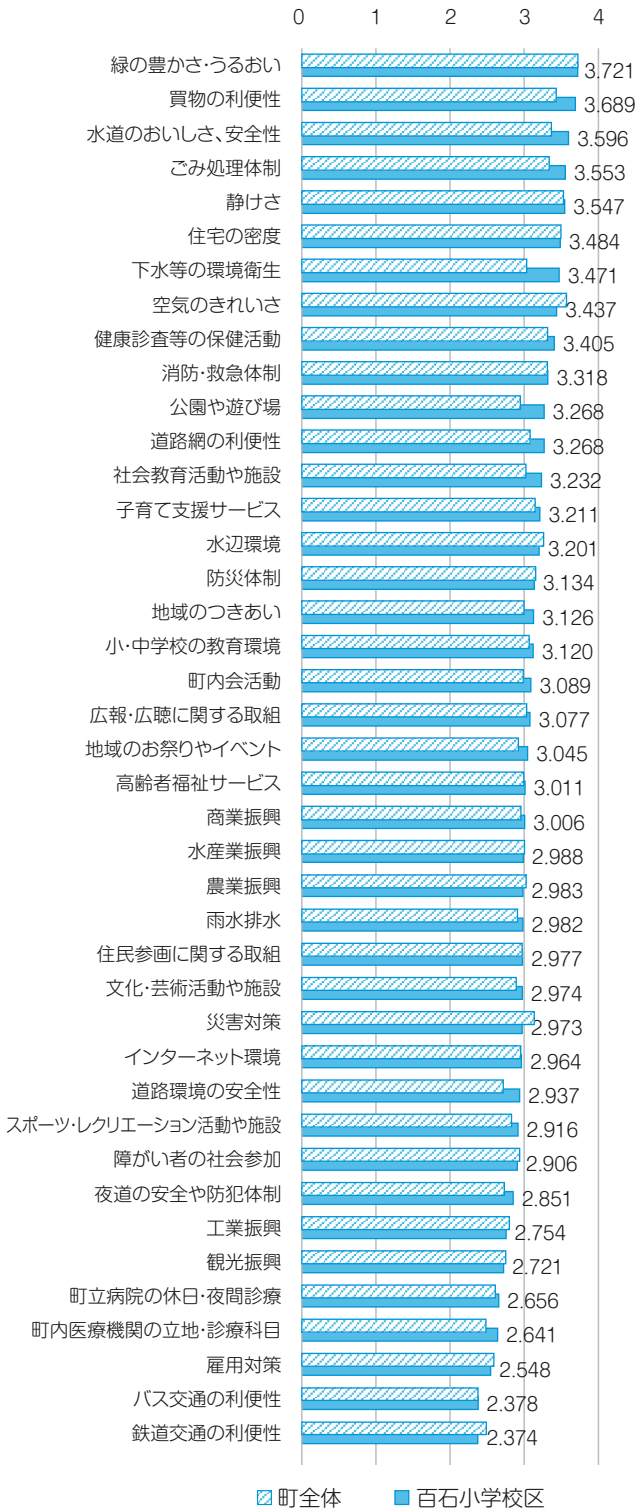
■「住まいの環境」の満足度

町の環境について、どの程度満足しているかを把握するため、町民アンケート調査にて「満足」、「やや満足」、「普通」、「やや不満」、「不満」の5段階で評価してもらいました。

平成29年調査（回答数=205）



令和4年調査（回答数=235）

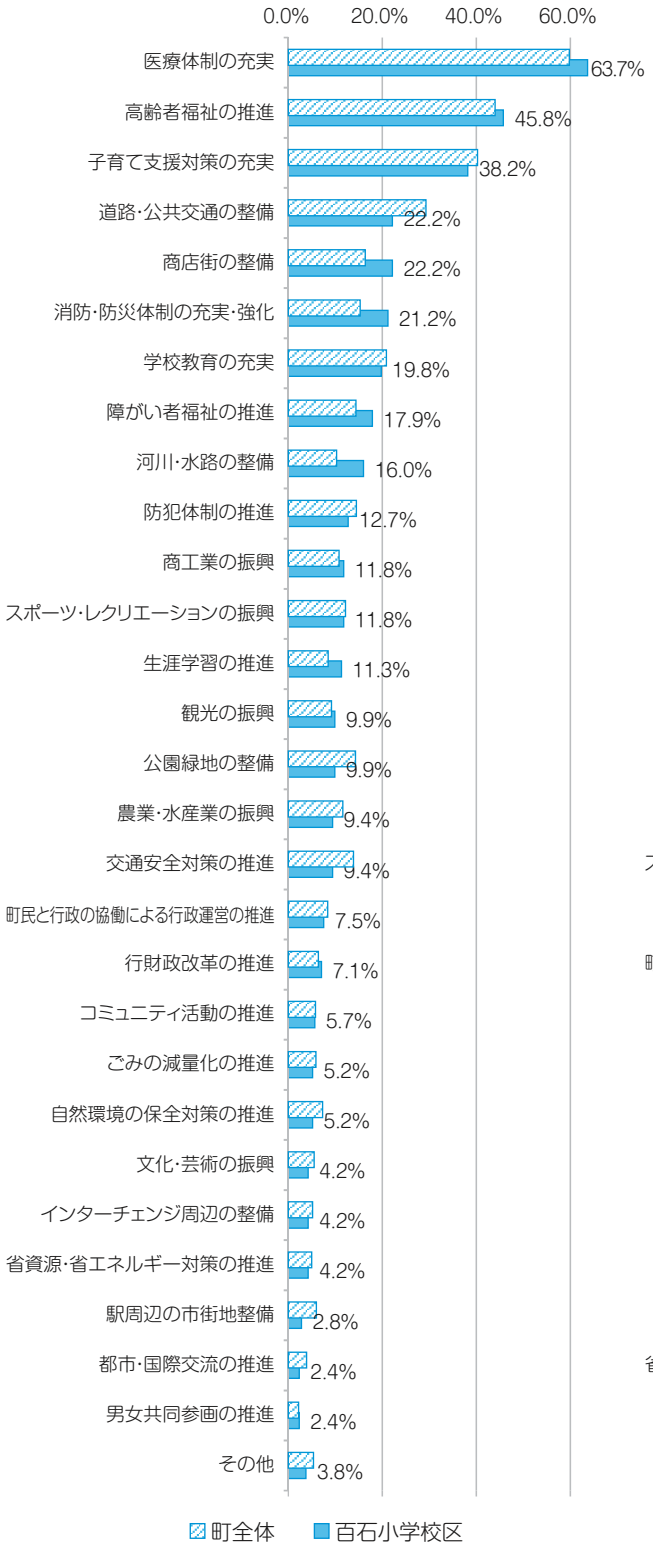


《百石小学校区》

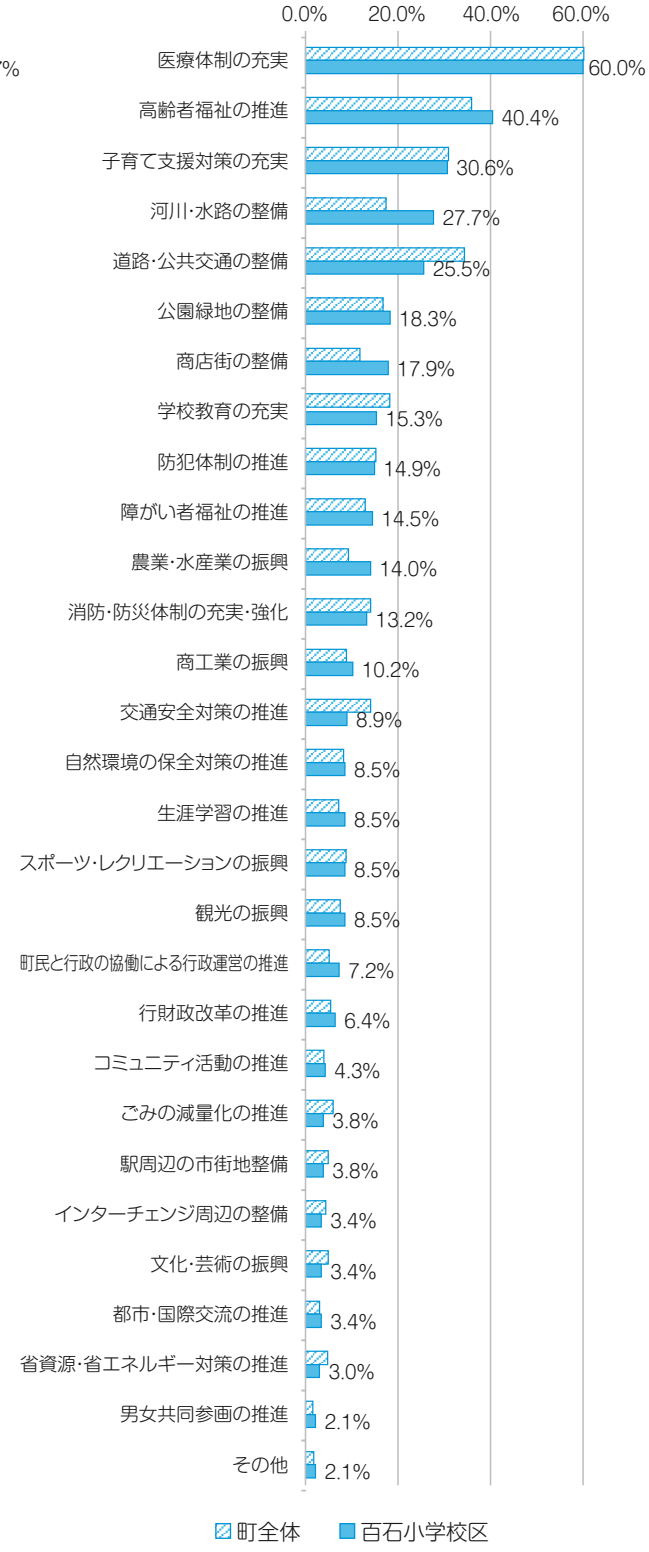
■まちづくりの課題

これからの町にとって、重要なまちづくりの取組（特に重点的に取り組むこと）を把握するため、町民アンケート調査にて5つまで選んでもらいました。

平成29年調査（回答数=205）



令和4年調査（回答数=235）



④ 地域の課題と地域の方向性（百石小学校区）

◆ 主な課題

主な課題として、次のようなことが挙げられました。

	主な課題	
(1)暮　ら　し	・公共施設等が不足している ・公共交通が不便 ・道路の整備と管理が不十分 ・各種産業の振興	・未利用地の増加 ・実効性のある健康づくりの取組が必要（健診受診率が低い）
(2)安全・安心	・防災に対する普段の備えと自主防災組織の維持	
(3)つ な が り	・子どもの減少 ・高齢者の増加 ・地域の担い手が不足	・地域の交流が薄れている ・祭りの継続が難しくなってきている
(4)そ　の　他	・町情報の周知不足 ・独身者が多い	・住みよい町だがこれが一番という売りがない

◆ 地域の課題を解決するための取組（自助・共助）

課題を解決する地域（協働）の取組として、次のようなことが挙げられました。

	主な課題	
(1)暮　ら　し	・公共施設は増やさない ・施設の集約や共同利用を検討 ・公共交通の積極的利用 ・町民バスに限らない新しい制度、仕組みを調査	・乗り合いを進める ・健康づくりの推進 ・いきいきサロンや敬老会を利用した啓発活動（広域開催も検討） ・地域づくり協議会の設置を検討
(2)安全・安心	・避難を皆で呼びかける	・防災訓練に参加する
(3)つ な が り	・地域活動・交流の活性化 ・Uターン環境の醸成 ・すべての無駄遣いをやめる（例：町内会経費） ・若い人をはじめ地域活動への参加者が増えるよう個人声かけ作戦 ・若い人たちが集まれるような趣味、サークルをつくる	・町内会で助け合う ・東公民館でダンスパーティーを開催、定期的なパーティーでふれ合いの場をつくる ・町内会合同での祭り参加を協議 ・町内会合同での敬老会、盆踊り、花見、防犯活動、運動会等の開催を検討
(4)そ　の　他	・おいらせ愛をはぐくむ ・公園等の魅力を伝える手段を提供	・明日、幸せに暮らすことを意識する

注）地区別構想策定時（平成30年度）の内容になります。

◆ 広域的な活動や地域づくり協議会の設立推進に係る取組

百石小学校区では、町内会同士による地域課題の共有や意見交換を目的に地域づくり講座や地域づくり座談会を開催しました。

平成29年度	内　　容
■地域づくり座談会 対象地区：堀切川、川口、明神下、横道	○地域の現状や今後の活動について共有 ・津波避難タワーをもっと知ってほしい、高齢者の一人暮らしが増えている。 ・みんなで花見がしたい。 →平成30年度～令和元年度に実現（開催）した。
令和元年度	**内　　容**
■地域づくり講座 対象地区：堀切川、川口、明神下、横道 ※向山、豊原、豊栄、苫米地（木ノ下小学校区）と合同で開催。	テーマ「これからの地域づくりへのヒント」 ・地域の良さ、困っている・工夫している点を共有。 ・心配していること、地域の理想の姿とはなんだろうかを話し合う。 ○講座での主な意見 ・共同作業に消極的な人が見られる。
令和2年度	**内　　容**
■地域づくり座談会 対象地区：一丁目～五丁目、上新町、新町、中央町、八幡町、肴町、大工町、七軒町	○地域の現状や今後の活動について共有。 ・アパート入居者の加入を増やすため、郵便用紙を送付し、協力金のお願いをしている。 ・ゴミ出しマナーの向上に苦慮している。
令和3年度	**内　　容**
■地域づくり座談会 対象地区：一丁目～五丁目、上新町、新町、中央町、八幡町、肴町、大工町、七軒町	テーマ「町内会の活動と運営方法を考える」 ○地域の現状や今後の活動について共有 ・高齢化により、側溝清掃等がつらいという声が増えた。 ・将来的に合併協議の必要性を感じる。
■地域づくり座談会 対象地区：根岸、黒坂、日ヶ久保、洋光台、向坂	地区ごとに日頃の活動状況や他町内会に聞いてみたいこと等を情報交換した。 ・広報紙等の配布について。 ・町内会長や班長の選出方法について。
令和4年度	**内　　容**
■地域づくり座談会 対象地区：根岸、黒坂、日ヶ久保、洋光台、向坂	テーマ：「町内会活動が続いていくための方法を考える」 ・町内会報、SNSを活用し、活動を発信する。 ・担い手不足解消のため、新しい企画を試す。
■地域づくり座談会 対象地区：六丁目、七軒町、藤ヶ森、下前田、苗振谷地	地域課題の共有や意見交換を行った。 ・高齢化や若い世代の参加者の減少、町内会未加入者の増加が目立つ。 ・若い世代の参加をどう促すかが課題。

(2)甲洋小学校区

① 地域の概況

甲洋小学校区は、町の北東に位置し、三沢市と隣接しています。

県道19号と国道338号が海岸部を南北に走り、隣接市とのアクセスが良好な地域です。

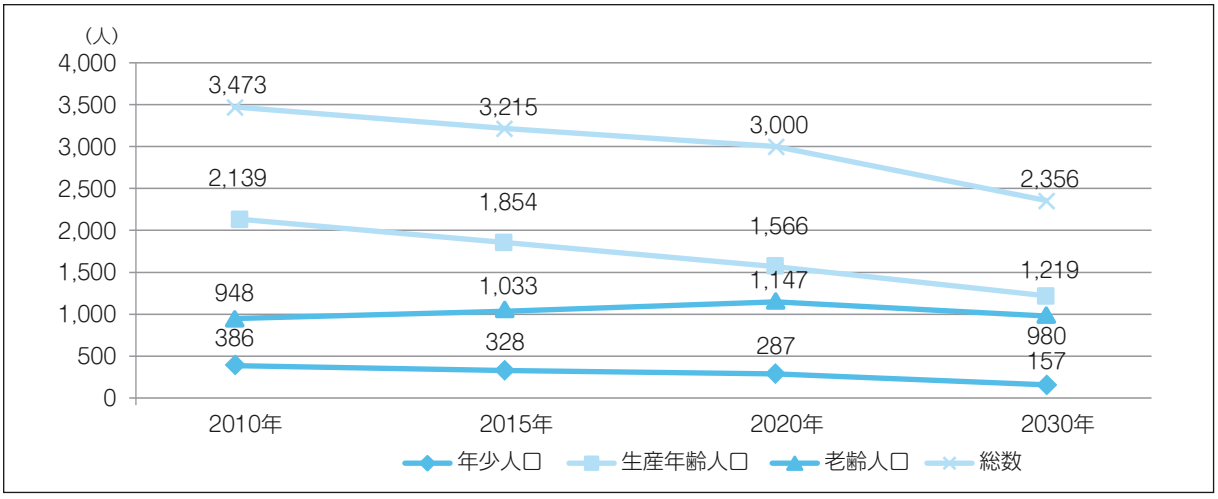
この地域は、ローム質火山灰土が大部分を占める農業生産性の高い地域であり、野菜栽培を中心とした農業が多く行われています。また、漁業も盛んで、主に北寄貝、鮭、ヒラメ等が獲れます。大きな公共施設はありませんが、漁業協同組合や農業協同組合等の施設や郵便局等があり、地域住民に利用されています。

当地区は、土地利用規制により容易に開発できないこともあり、人口が急激に減少しています。今後も減少することが予測されるため、地域を支えるコミュニティ運営への支障が懸念されます。

町では、人口定住策を推進し、人口減少対策の取組を実施しています。

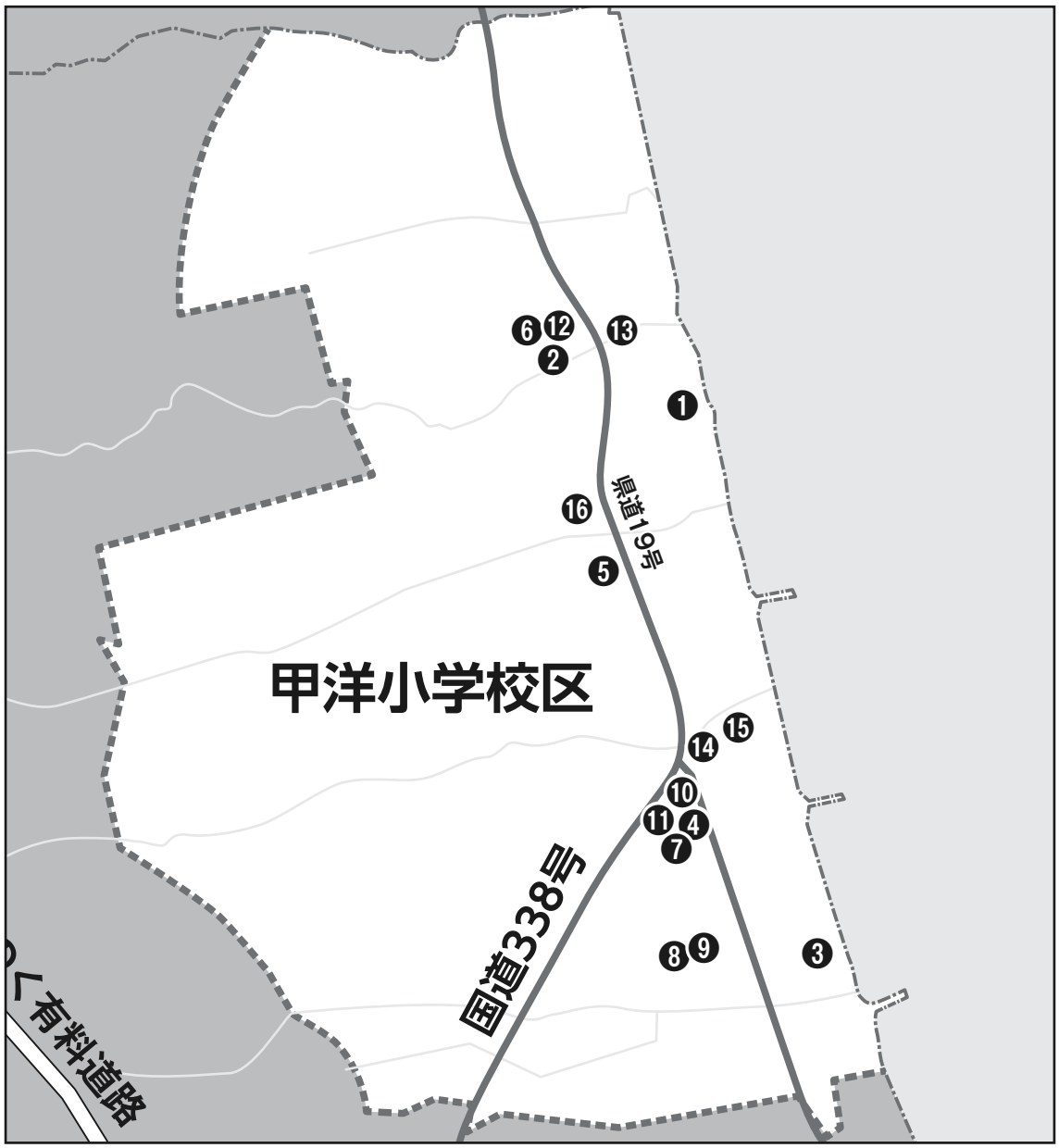
◆人口推移及び推計と高齢化率

甲洋小学校区の人口は、3,473人から3,000人へと、2010年（平成22年）から2020年（令和２年）の10年間で473人減少しました。今後もこの傾向が続くと、2030年（令和12年）には2,356人にまで減少することが予測されます。また、少子高齢化も進んでおり、2020年（令和２年）に38.2%の高齢化率が、2030年（令和12年）には41.6%になる見通しです。



年齢３区分 ＼ 年	2010年	2015年	2020年	2030年	増減数（2010年⇒2030年）	増減率（2010年⇒2030年）
年少人口(0～14歳)	11.1%	10.2%	9.6%	6.7%	－229人	－4.5ポイント
生産年齢人口(15～64歳)	61.6%	57.7%	52.2%	51.7%	－920人	－9.8ポイント
老年人口(65歳以上)	27.3%	32.1%	38.2%	41.6%	+32人	+14.3ポイント

② 地域の主な公共的施設（甲洋小学校区）



		甲洋小学校区
庁舎・公民館等	❶	海浜公園
	❷	二川目児童公園
	❸	深沢公園
	❹	一川目児童公園
学校・児童館・保育園等	❺	甲洋小学校
	❻	二川目保育園
	❼	一川目保育園
	❽	深沢保育園

		甲洋小学校区
町内会集会施設等	❾	深沢地区コミュニティセンター
	❿	一川目地区生活館
	⓫	一川目地区コミュニティセンター
	⓬	二川目地区生活館
金融機関等	⓭	二川目郵便局
	⓮	一川目簡易郵便局
	⓯	百石町漁業協同組合
	⓰	JA十和田おいらせ　野菜センター（二川目）

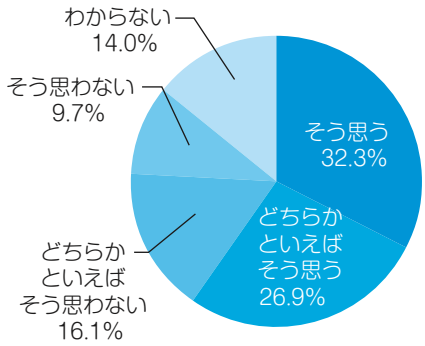
③ 地域の意向（甲洋小学校区）

◆アンケート調査

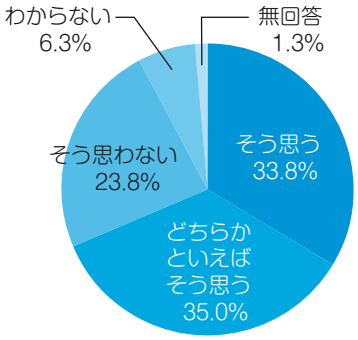
町民アンケート調査

Q．おいらせ町には、長く住み続けられる魅力があると思いますか。

平成29年調査（回答数=93）



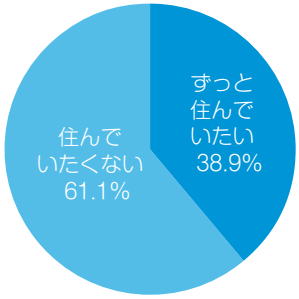
令和４年調査（回答数=80）



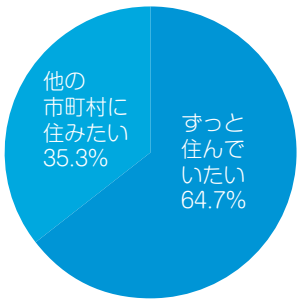
小学生まちづくりアンケート調査

Q．大人になってもおいらせ町にずっと住んでいたいと思いますか。

平成29年調査（回答数=18）



令和４年調査（回答数=17）

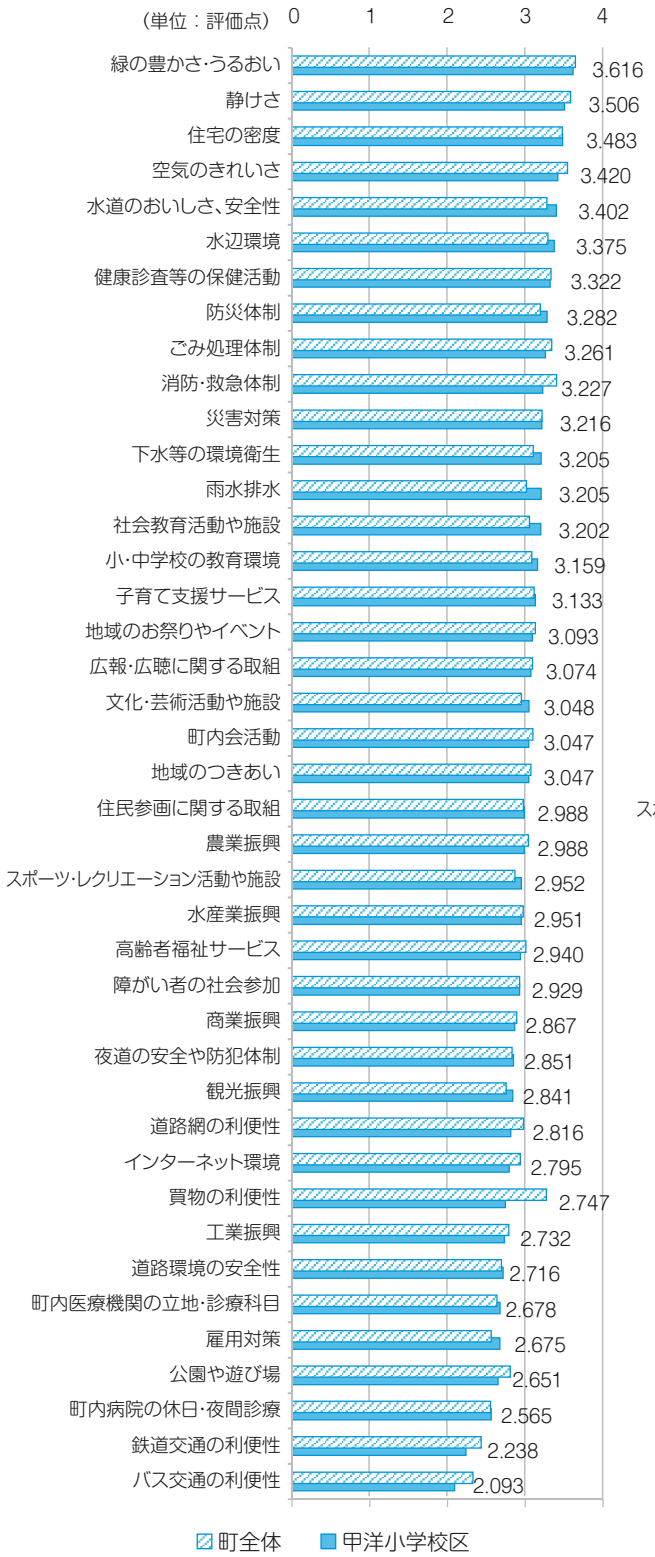


《甲洋小学校区》

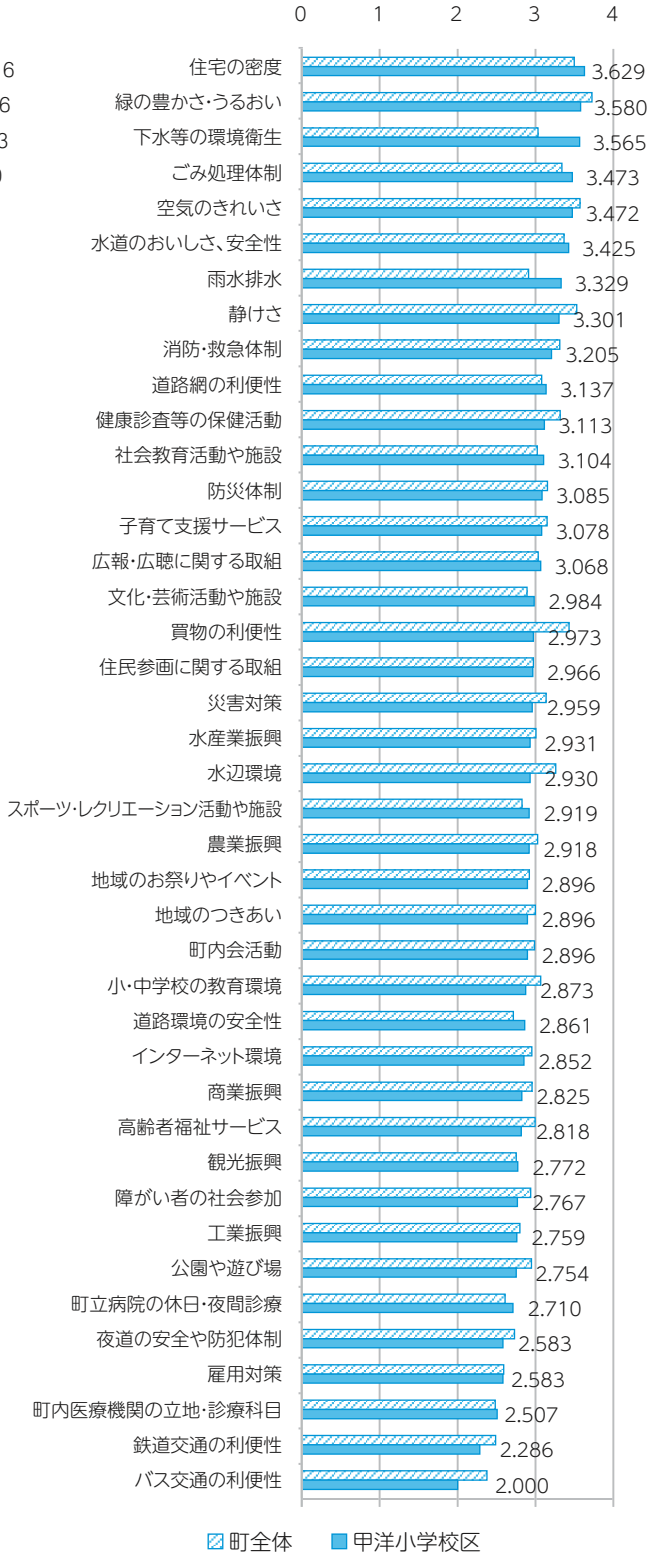
■「住まいの環境」の満足度

町の環境について、どの程度満足しているかを把握するため、町民アンケート調査にて「満足」、「やや満足」、「普通」、「やや不満」、「不満」の5段階で評価してもらいました。

平成29年調査（回答数=93）



令和４年調査（回答数=80）

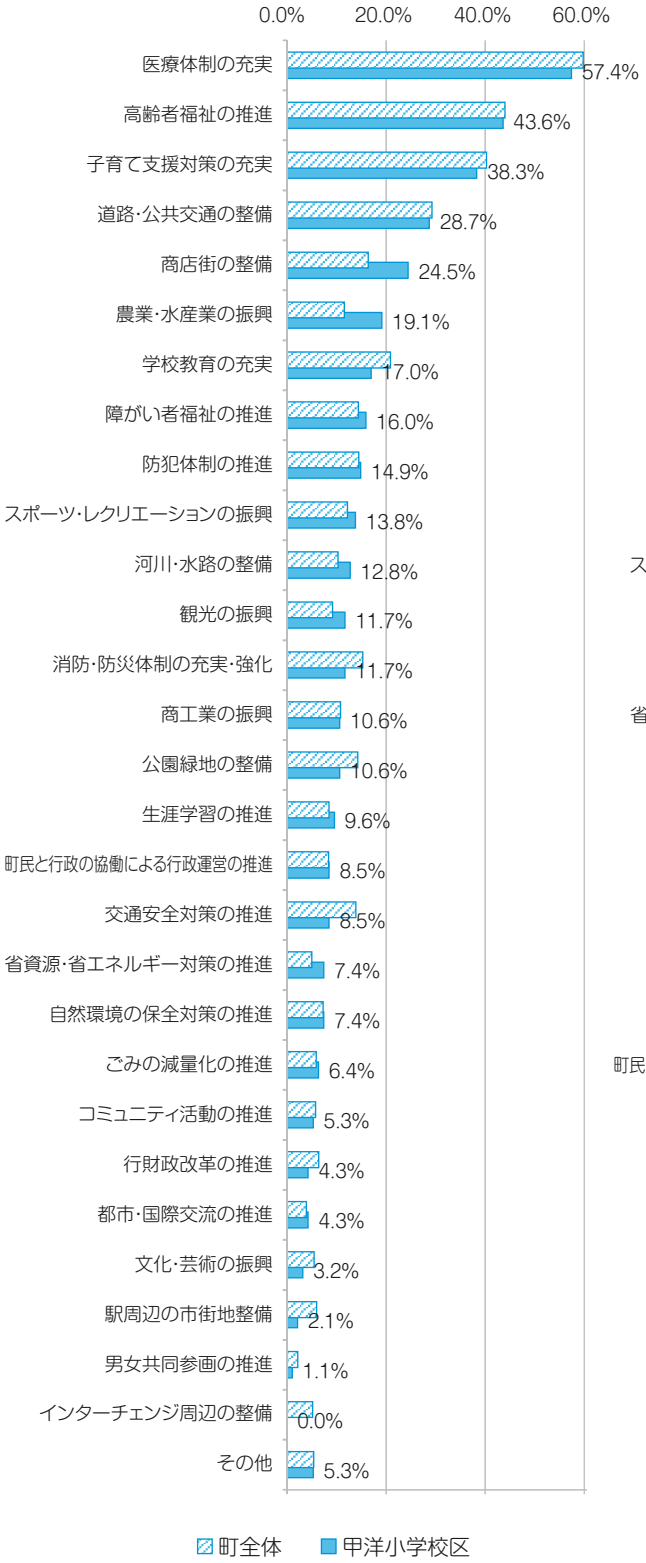


《甲洋小学校区》

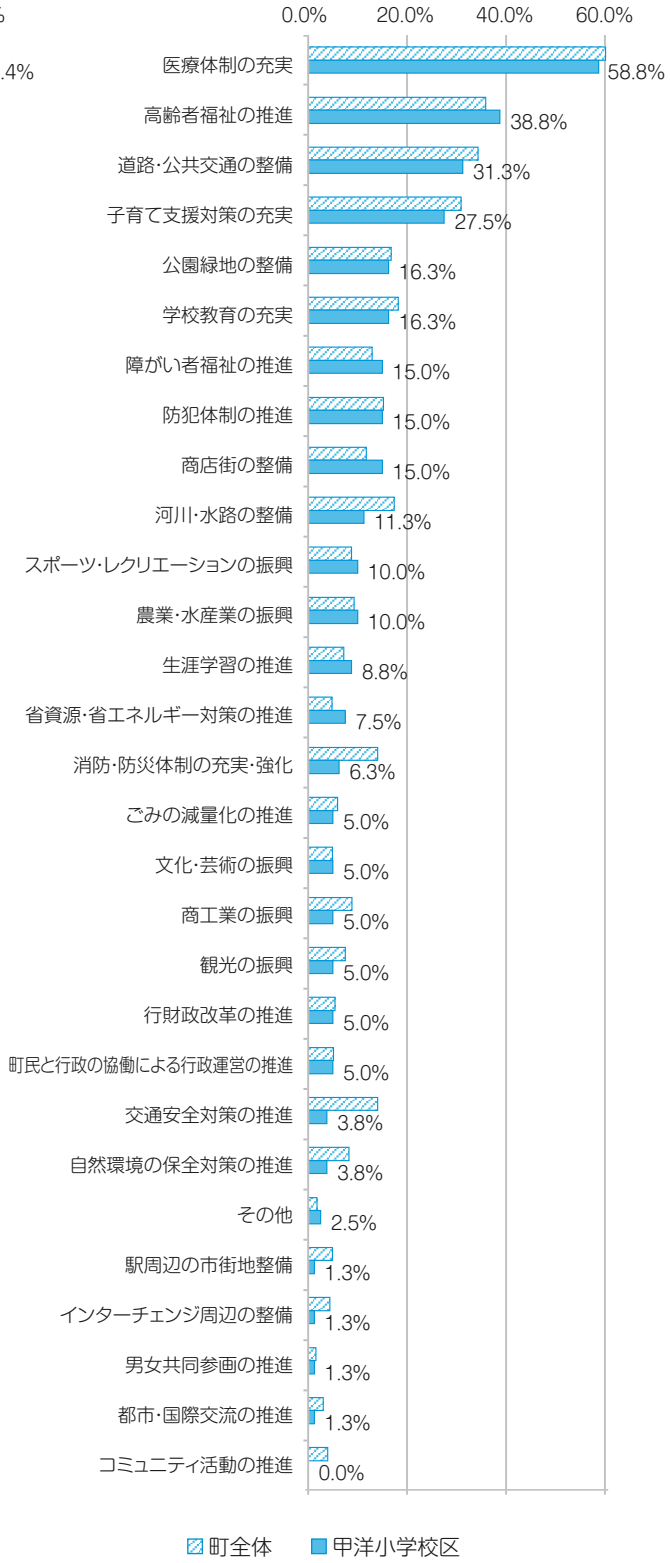
■まちづくりの課題

これからの町にとって、重要なまちづくりの取組（特に重点的に取り組むこと）を把握するため、町民アンケート調査にて5つまで選んでもらいました。

平成29年調査（回答数=93）



令和４年調査（回答数=80）



④ 地域の課題と地域の方向性（甲洋小学校区）

主な課題として、次のようなことが挙げられました。

◆ ①主な課題

	主な課題
(1)暮　ら　し	・生活環境の悪化（土埃、砂浜のごみ、堆肥の臭い、田畑の荒廃等） ・生活機能の縮小（病院、診療科目が少ない、地元の商店の減少等） ・不便な交通体系 ・空き家の増加 ・働く場所が少ない
(2)安全・安心	・交通安全への不安（歩道が少ない、幹線道路の交通量の多さ等）
(3)つ な が り	・人口減少等により地域の交流が薄れている ・地域のリーダーがいなくなっている
(4)そ　の　他	―

◆ ②地域の課題を解決するための取組（自助・共助）

課題を解決する地域（協働）の取組として、次のようなことが挙げられました。

	主な課題
(1)暮　ら　し	・積極的な公共交通の利用（乗り合い、バスにみんなで乗る、運行管理を町民（運転手）と業者（管理）で行うことを検討） ・町内でのゴミ拾い
(2)安全・安心	・歩道の枝払いや除雪の対応を検討（町内会や消防団での枝払いを継続）
(3)つ な が り	・地域交流の推進（交流の場をつくることを考える、老人向けスマホ教室（連絡手段）や化粧教室（若返り講座）の開催を検討する、若いおじいちゃんおばあちゃんに講師をお願いする）
(4)そ　の　他	―

※地区別構想策定時（平成30年）の内容になります。

◆ 広域的な活動や地域づくり協議会の設立推進に係る取組

甲洋小学校区では、町内会同士による地域課題の共有や意見交換を目的に地域づくり座談会を開催しました。

令和元年度	内　　容
■地域づくり座談会 対象地区：深沢、一川目、二川目	地域課題の共有や意見交換を行った。 ・甲洋小学校区３町内会で1,000世帯ある。単位町内会の運営を支援してほしい。 ・高齢者の寄合場所、情報交換拠点があればいいと思う。 ・中高生を取り込んでいければいいと思う。 ・定住助成金を申請した人に地域のことを聞いてみてはどうだろうか。

一川目海岸

(3) 下田小学校区

① 地域の概況

下田小学校区は、町の南西に位置し、南は五戸町、西は六戸町と隣接しています。

奥入瀬川や国道45号が地区内を横断し、東北新幹線が南東から北西へ斜めに走っています。古代には阿光坊古墳群が形成され、現在も古くからの「ムラ」の雰囲気を残し、国道45号沿道や下田小学校周辺には既存集落が形成されています。

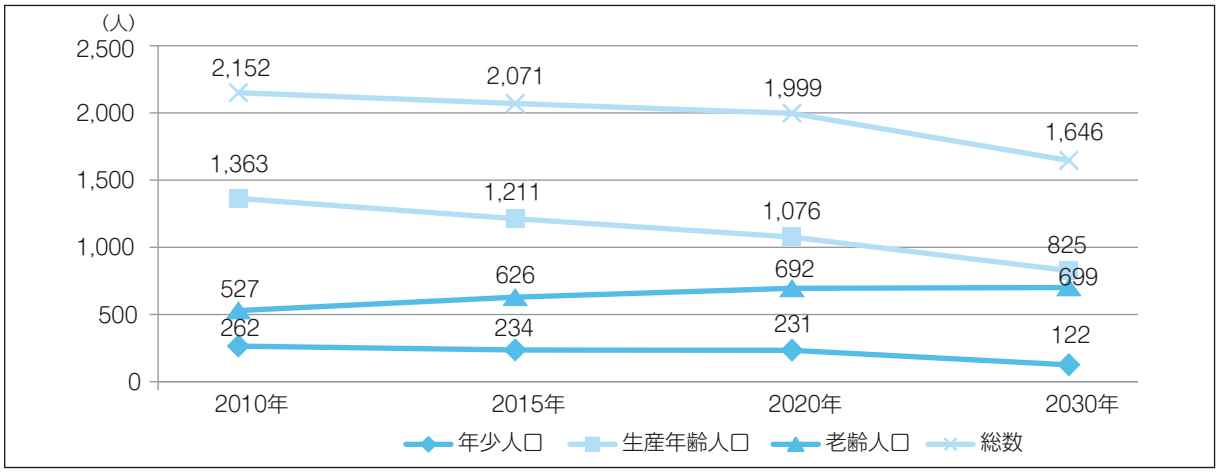
地域全体に広がる田園地帯は、ほ場整備事業やかんがい排水事業で整備され、当町の農業施策にも大きく貢献してきましたが、近年では担い手不足等により休耕田となっている場所も見られ、美しい農村の風景も変わりつつあります。

昔から、この地に住んでいる人が多く、冬場は国道45号沿い歩道を除雪したり、地域の手作り公園を整備したりする等、町民主体の地域づくり活動が多くみられます。

町では、人口定住策を推進し、人口減少対策の取組を実施しています。

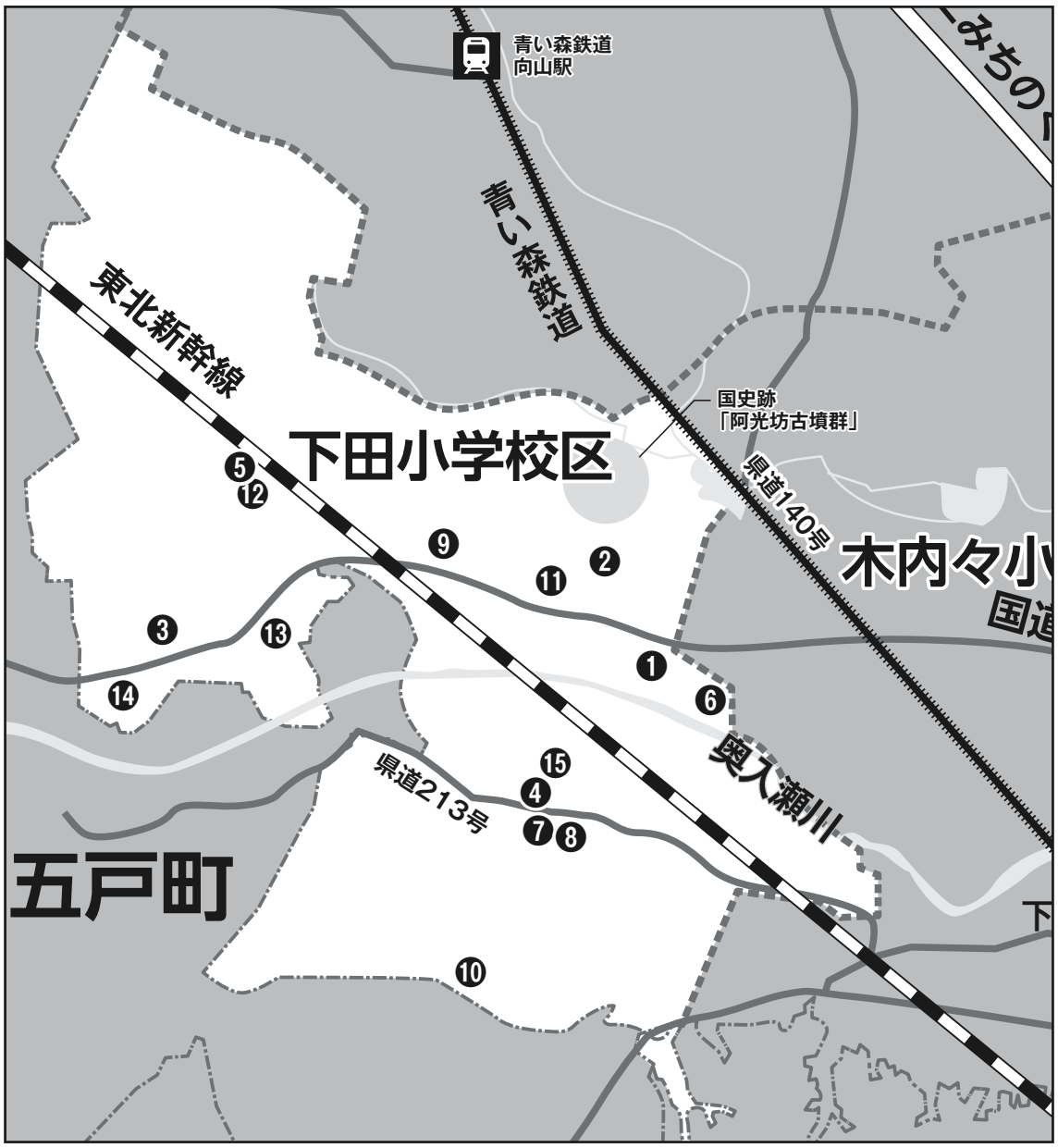
◆人口推移及び推計と高齢化率

下田小学校区の人口は、2,152人から1,999人へと、2010年（平成22年）から2020年（令和２年）の10年間で153人減少しました。今後もこの傾向が続くと、2030年（令和12年）には1,646人にまで減少することが予測されます。また、少子高齢化も進んでおり、2020年（令和２年）に34.6%の高齢化率が、2030年（令和12年）には42.5%になる見通しです。



年齢３区分 ＼ 年	2010年	2015年	2020年	2030年	増減数（2010年⇒2030年）	増減率（2010年⇒2030年）
年少人口(0～14歳)	12.2%	11.3%	11.6%	7.4%	−140人	−4.8ポイント
生産年齢人口(15～64歳)	63.3%	58.5%	53.8%	50.1%	−538人	−13.2ポイント
老年人口(65歳以上)	24.5%	30.2%	34.6%	42.5%	+172人	+18.0ポイント

② 地域の主な公共的施設（下田小学校区）



		下田小学校区
庁舎・公民館等	❶	おいらせ阿光坊古墳館
	❷	阿光坊地区公園
	❸	新敷地区公園（瓢農村公園）
学校・児童館・保育園等	❹	下田小学校
	❺	錦ヶ丘保育園
	❻	下田こども園
	❼	本村こども園
	❽	太陽児童クラブ
医療・保険・福祉施設等	❾	特別養護老人ホーム阿光坊の郷

		下田小学校区
町内会集会施設等	❿	鍋久保文化センター
	⓫	阿光坊地区農事集会所
	⓬	錦ヶ丘集会所
	⓭	新敷集会所
	⓮	洗平地区農業構造改善センター
	⓯	本村地区コミュニティセンター伝承館

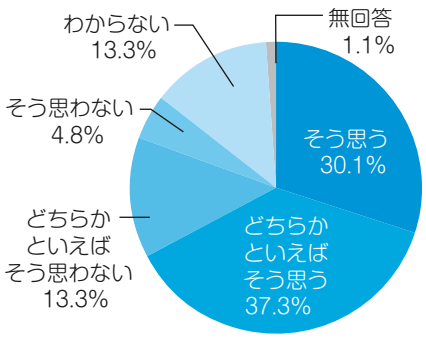
③ 地域の意向（下田小学校区）

◆アンケート調査

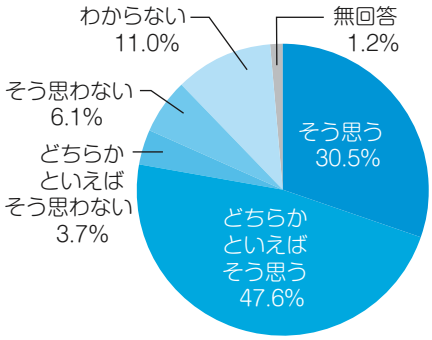
町民アンケート調査

Q．おいらせ町には、長く住み続けられる魅力があると思いますか。

平成29年調査（回答数=83）



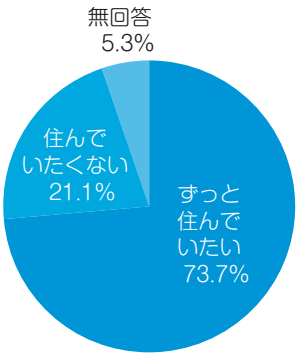
令和４年調査（回答数=82）



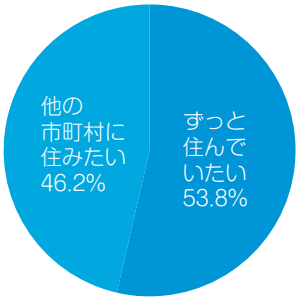
小学生まちづくりアンケート調査

Q．大人になってもおいらせ町にずっと住んでいたいと思いますか。

平成29年調査（回答数=18）



令和４年調査（回答数=17）

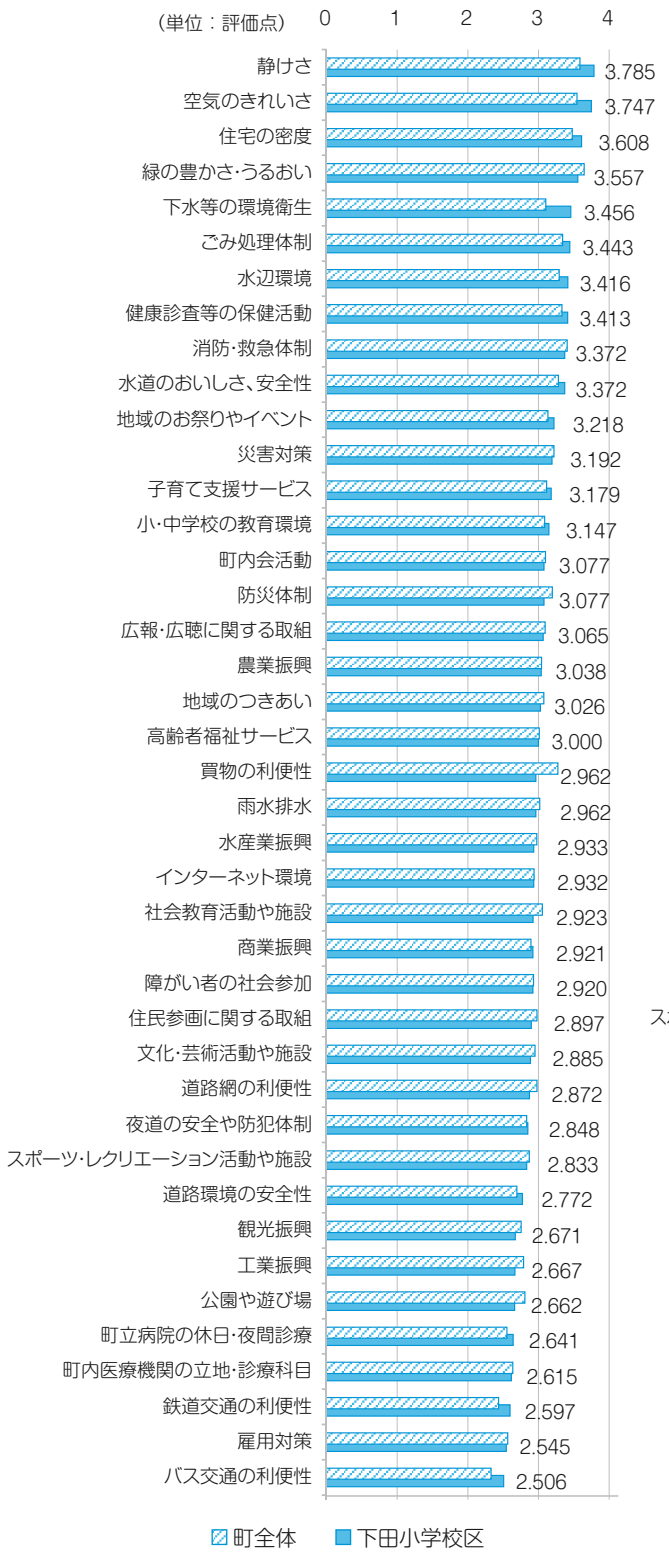


《下田小学校区》

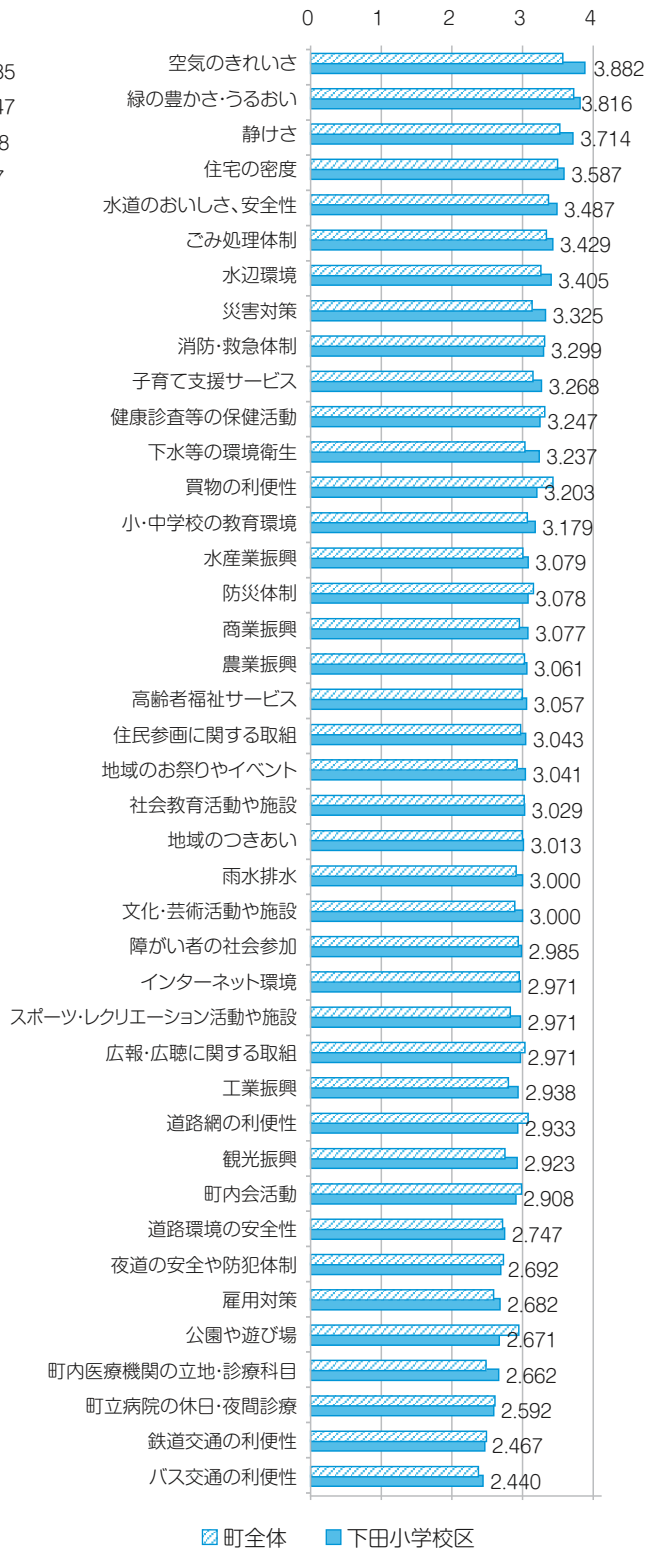
■「住まいの環境」の満足度

町の環境について、どの程度満足しているかを把握するため、町民アンケート調査にて「満足」、「やや満足」、「普通」、「やや不満」、「不満」の5段階で評価してもらいました。

平成29年調査（回答数=83）



令和4年調査（回答数=82）

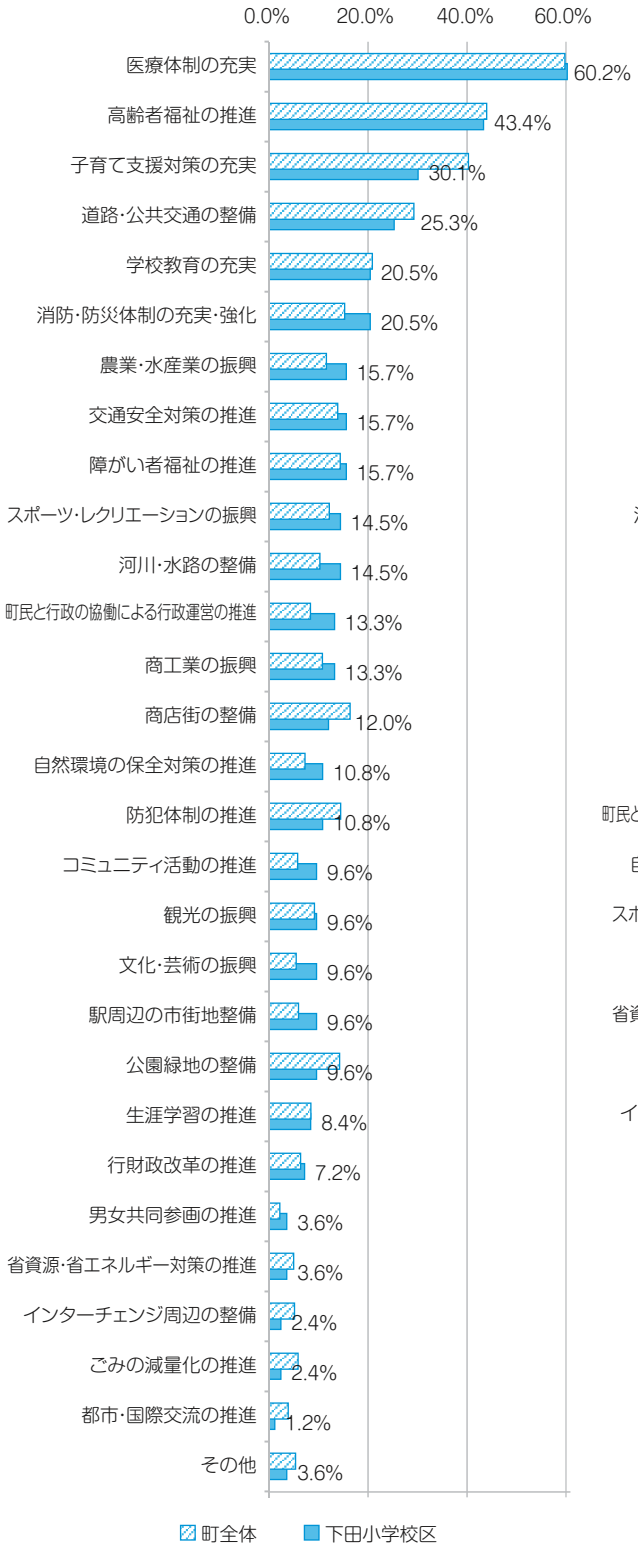


《下田小学校区》

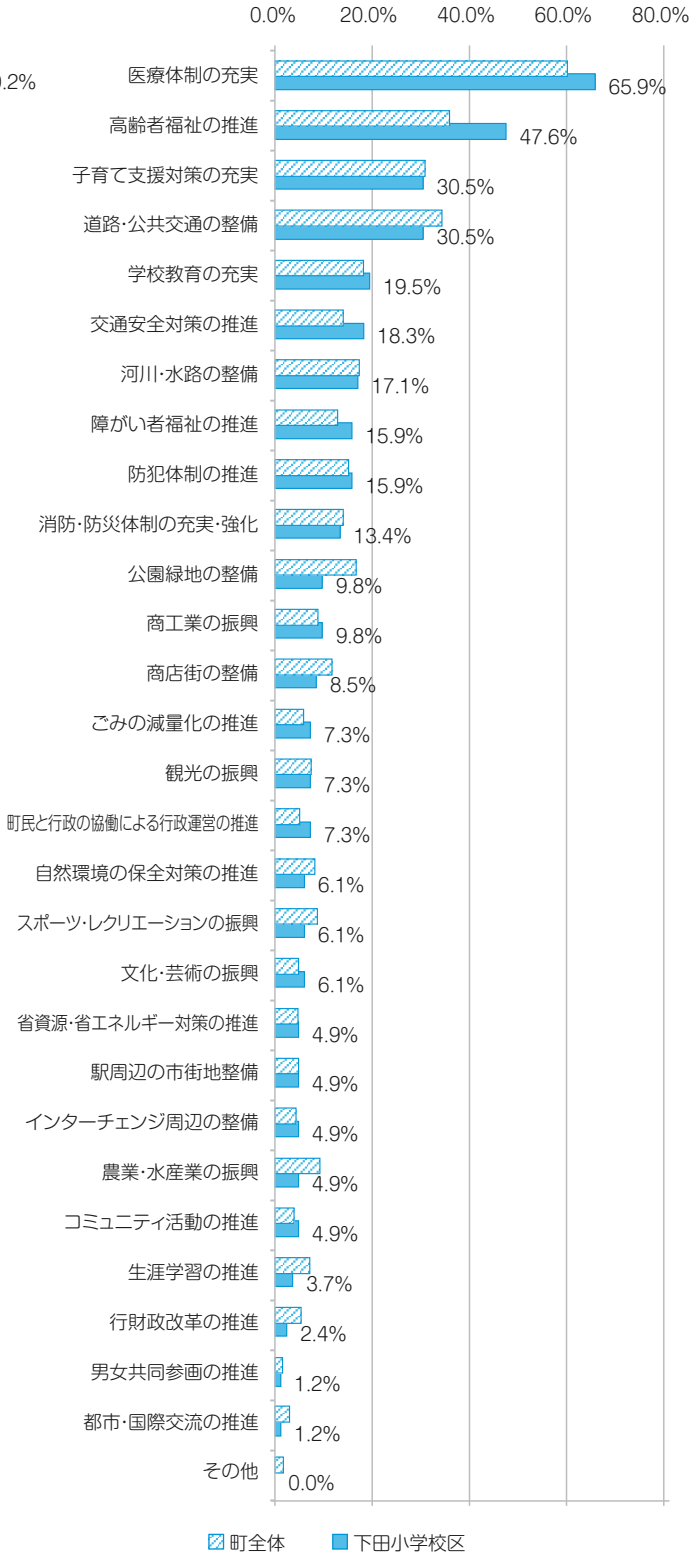
■まちづくりの課題

これからの町にとって、重要なまちづくりの取組（特に重点的に取り組むこと）を把握するため、町民アンケート調査にて5つまで選んでもらいました。

平成29年調査（回答数=83）



令和４年調査（回答数=82）



④ 地域の課題と地域の方向性（下田小学校区）

◆ 主な課題

主な課題として、次のようなことが挙げられました。

	主な課題
(1)暮　ら　し	・農業の担い手の減少等により耕作放棄地が増えている ・土地開発規制があるため、宅地開発できる土地がない ・町民バスの運行が少ないため、不便である
(2)安全・安心	・ひとり暮らしの高齢者が増えている ・町民バスの運行が少ないため不便である ・車がすれ違えないような狭い道路や未整備の側溝があり、歩行者が危険である
(3)つ な が り	・地域活動に若い人や女性、子どもの参加が少なくなっている ・地域活動組織が高齢化してきている
(4)そ　の　他	・観光地のＰＲ不足 ・駐車場が少ない ・学区内に図書館がない

◆ 地域の課題を解決するための取組（自助・共助）

課題を解決する地域（協働）の取組として、次のようなことが挙げられました。

	主な課題
(1)暮　ら　し	・空き家の提供と活用を進める ・生きがいや仕事づくりに向けた野菜販売を行う ・自然・公園・文化を守り、継承する ・下田小学校を活用して、子育て環境の魅力アップ（充実）を図る
(2)安全・安心	・子ども会で交通安全活動を行う ・自主防災組織で訓練を行う
(3)つ な が り	・農家は出荷できない野菜等を子ども（食育）や高齢者の施設に提供する ・地区の活動に参加する ・生きがいや仕事づくりに向けた野菜販売を行う ・空き家の提供と活用を進める ・盆踊り等の地域住民の交流事業を継続し、子どもの郷土愛を育む ・ボランティア活動に参加する ・郷土芸能の継承を行う ・郷土料理（家庭料理）を祭り等で提供し、食文化を子どもに伝える ・紙芝居等の地域住民の交流行事を実施する ・地域への協力者を増やすために、地域内で話し合いの場をつくる
(4)そ　の　他	・いらない本を持ち寄り活用する

※地区別構想策定時（平成30年）の内容になります。

◆ 広域的な活動や地域づくり協議会の設立推進に係る取組

下田小学校区では、町内会同士による地域課題の共有や意見交換を目的に地域づくり座談会を開催しました。

令和２年度	内　　容
■地域づくり座談会 対象地区：本村、鍋久保、洗平、新敷、阿光坊、錦ヶ丘	地域課題の共有や意見交換を行った。 ・児童減少を抑制し、小学校を残したい。 ・町内会事業の見直しを行い、行事参加者の増加を図っている。 ・これから空き家が増えそうだ。
令和３年度	**内　　容**
■地域づくり座談会 対象地区：本村、鍋久保、洗平、新敷、阿光坊、錦ヶ丘	テーマ「下田小学校（地域）を残していくためにできることを考える」 ・小学校存続は、地域活動では解決できない、行政が取り組むべきこと。 ・インフラ、子育てしやすい環境を整備する。 ・町内会や地域ボランティアの高齢化が進んでいて、いつかはなくなると思っている。

(4)木内々小学校区

① 地域の概況

木内々小学校区は、町の南中央に位置し、南側は五戸町や八戸市と隣接しています。

奥入瀬川の南北に広がる田園景観を形成する農地を中心とした地域で、古くから水稲を中心とする農業が展開されてきた地域です。

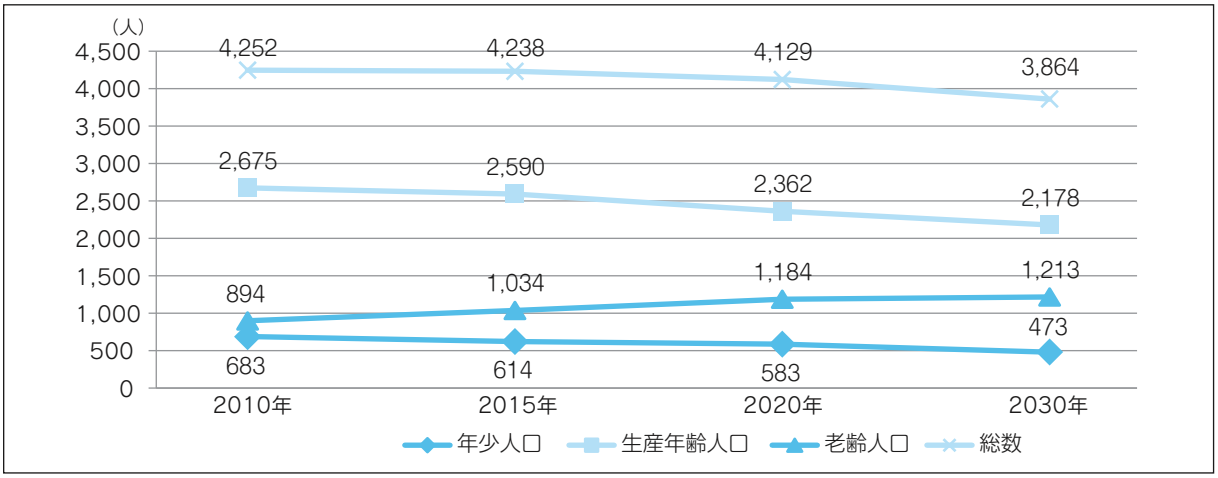
地区内の南側に県道119号、奥入瀬川を挟んで国道45号が地域内を東西に走っており、国道沿いや本庁舎周辺等にその地の利を活かして、工場や店舗が立地していましたが、企業の撤退等により未利用地が目立ってきており、その活用も課題となっています。

その一方で、下田百石インターチェンジ周辺の郊外型大型ショッピングセンターは、田園地域の大規模な土地利用転換により、開発が進められた地域で、周辺への商業集積や住宅地の建設等が進んでいます。地区内の北側には、自然環境を保全しながら整備された下田公園があり、町民の憩いの場となっています。

◆人口推移及び推計と高齢化率

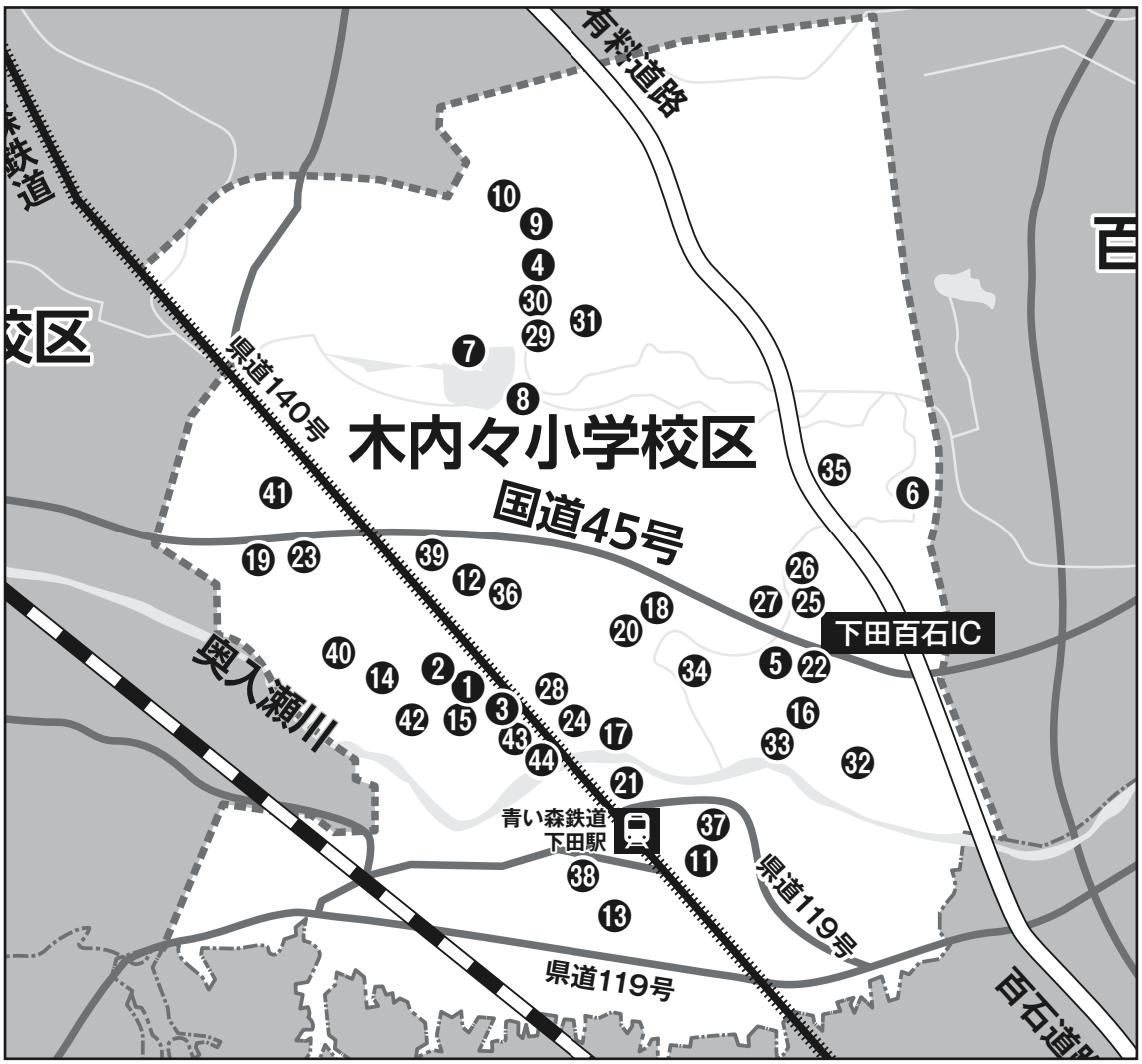
木内々小学校区の人口は4,252人から4,129人へと、2010年（平成22年）から2020年（令和２年）の10年間で123人減少しました。今後もこの傾向が続くと、2030年（令和12年）には3,864人にまで減少することが予測されます。

また、少子高齢化も少しずつ進んでおり、2020年（令和２年）に28.7%の高齢化率が、2030年（令和12年）には31.4%になる見通しです。



年齢３区分 ＼ 年	2010年	2015年	2020年	2030年	増減数 (2010年⇒2030年)	増減率 (2010年⇒2030年)
年少人口(0～14歳)	16.1%	14.5%	14.1%	12.2%	−210人	−3.8ポイント
生産年齢人口(15～64歳)	62.9%	61.1%	57.2%	56.4%	−497人	−6.5ポイント
老年人口(65歳以上)	21.0%	24.4%	28.7%	31.4%	+319人	+10.4ポイント

② 地域の主な公共的施設（木内々小学校区）



		木内々小学校区
庁舎・公民館等	❶	おいらせ町役場本庁舎
	❷	町民交流センター
	❸	中央公民館
	❹	農村環境改善センター
	❺	おいらせ交番
	❻	おいらせ消防署
	❼	下田公園
	❽	ネーチャーセンター白鳥の家
	❾	おいらせ町民プール
	❿	縄文の森イベント広場
	⓫	三田児童公園
	⓬	曙児童公園
	⓭	三本木児童公園
	⓮	木内々公園
	⓯	中下田緑地
	⓰	秋堂地区公園
	⓱	しもだサーモンパーク
学校・児童館・保育園等	⓲	木内々小学校
	⓳	下田中学校
	⓴	木内々児童センターひまわり館
	㉑	三田保育園
	㉒	おおぞら保育園
	㉓	学校給食センター

		木内々小学校区
医療・保険・福祉施設等	㉔	下田診療所
	㉕	こんの医院
	㉖	きくち眼科イオン下田
	㉗	柏崎歯科下田ショッピングセンター診療所
	㉘	老人福祉センター
	㉙	介護老人保健施設しもだ
	㉚	グループホームわたぼうし
	㉛	住宅型有料老人ホーム しらとり荘
町内会集会施設等	㉜	秋堂コミュニティセンター
	㉝	木崎ふれあい館
	㉞	染屋集会所
	㉟	中野平集会所
	㊱	間木地区コミュニティセンター
	㊲	三田会館
	㊳	三本木ふれあい館
	㊴	曙集会所
	㊵	木内々コミュニティセンター
	㊶	有楽町集会所
金融機関等	㊷	下田郵便局
	㊸	青い森信用金庫　おいらせ支店
	㊹	JA十和田おいらせ　下田支店

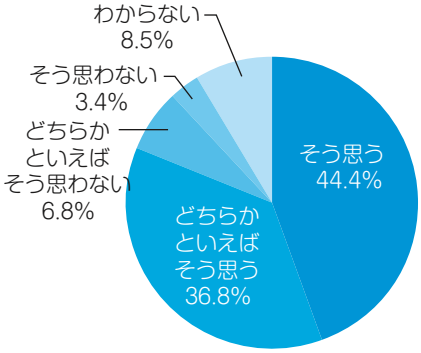
③ 地域の意向（木内々小学校区）

◆アンケート調査

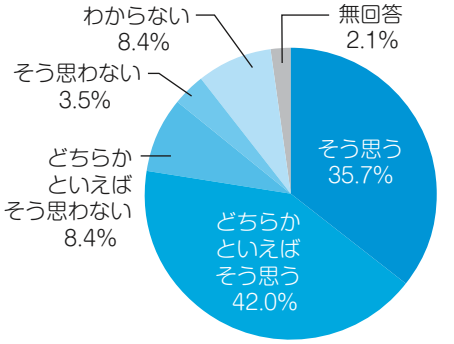
町民アンケート調査

Q．おいらせ町には、長く住み続けられる魅力があると思いますか。

平成29年調査（回答数=117）



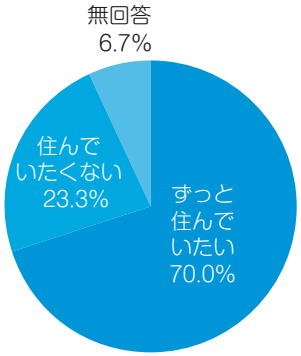
令和４年調査（回答数=143）



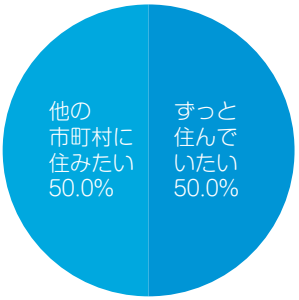
小学生まちづくりアンケート調査

Q．大人になってもおいらせ町にずっと住んでいたいと思いますか。

平成29年調査（回答数=30）



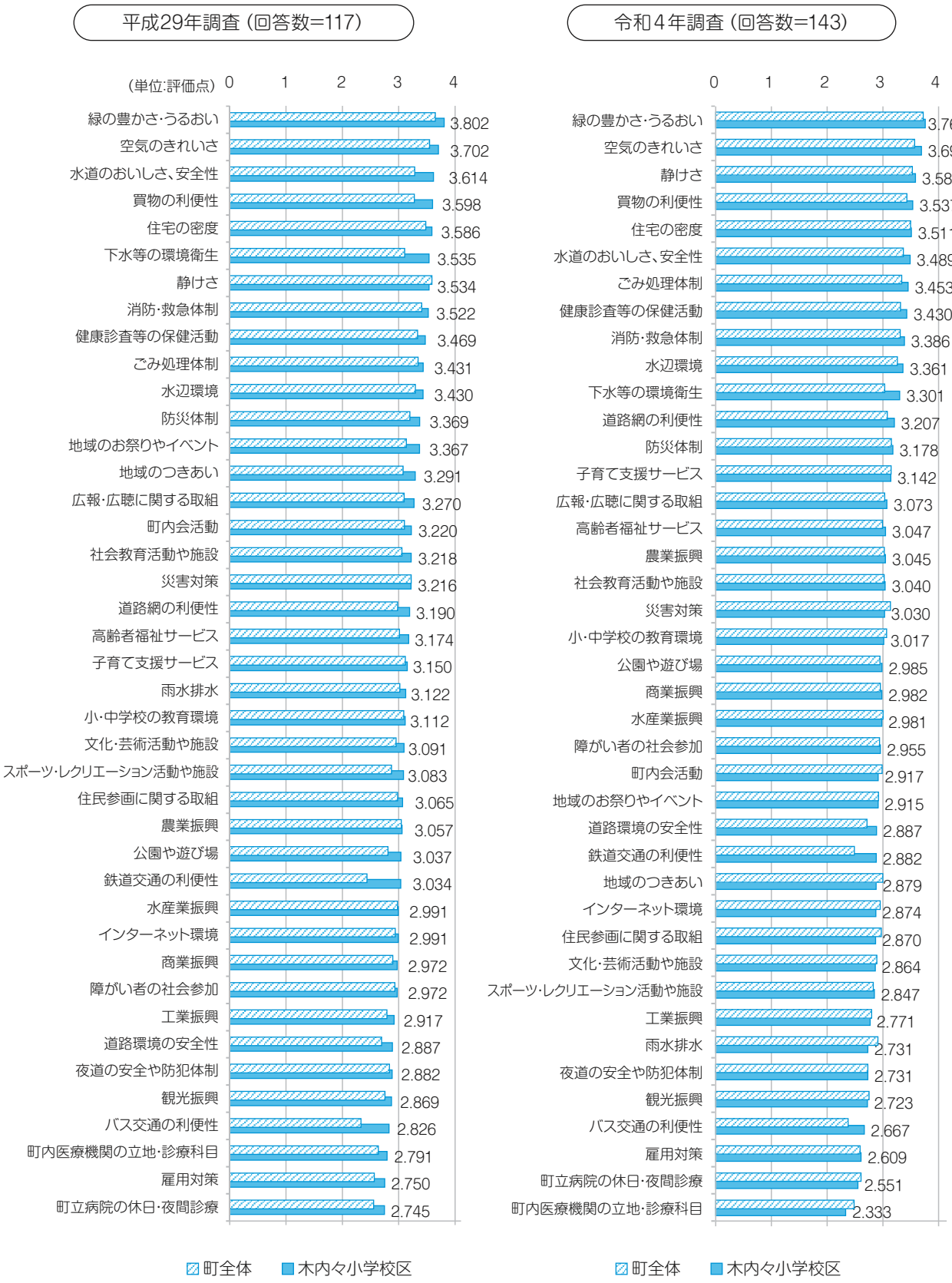
令和４年調査（回答数=44）



《木内々小学校区》

■「住まいの環境」の満足度

町の環境について、どの程度満足しているかを把握するため、町民アンケート調査にて「満足」、「やや満足」、「普通」、「やや不満」、「不満」の5段階で評価してもらいました。

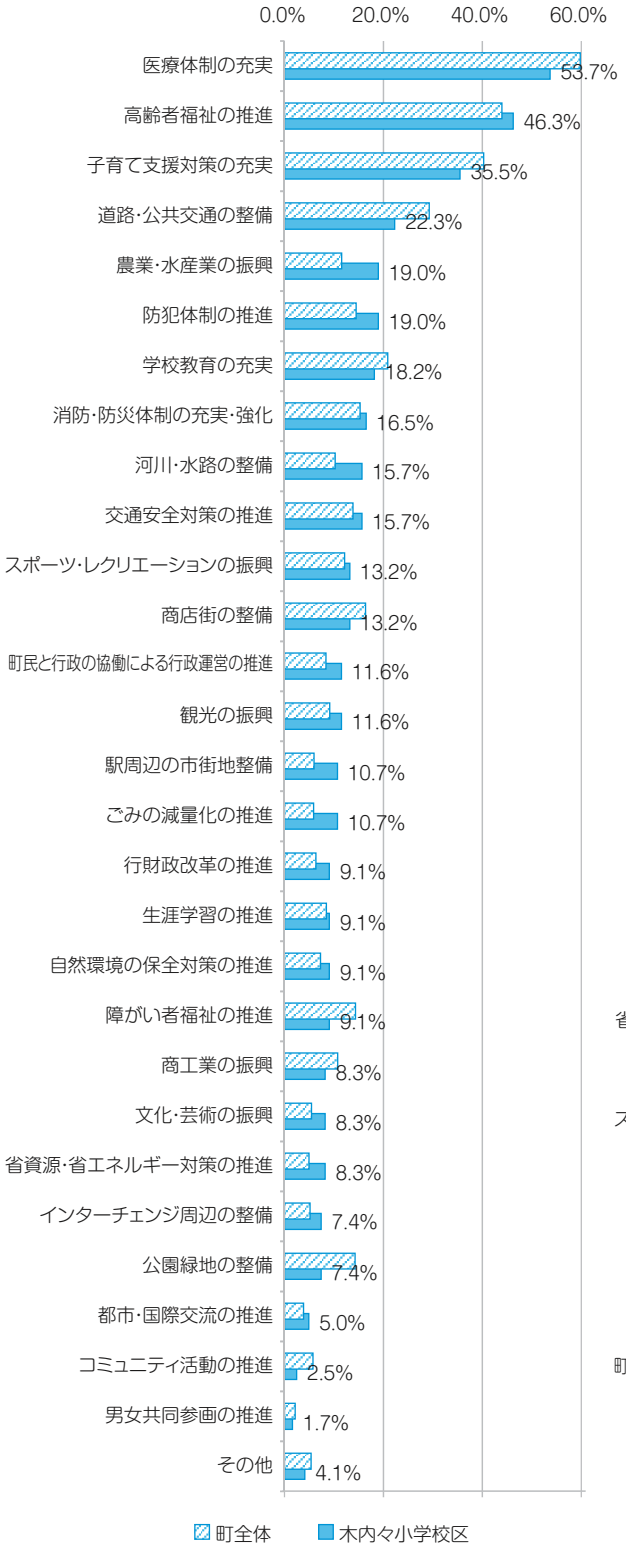


《木内々小学校区》

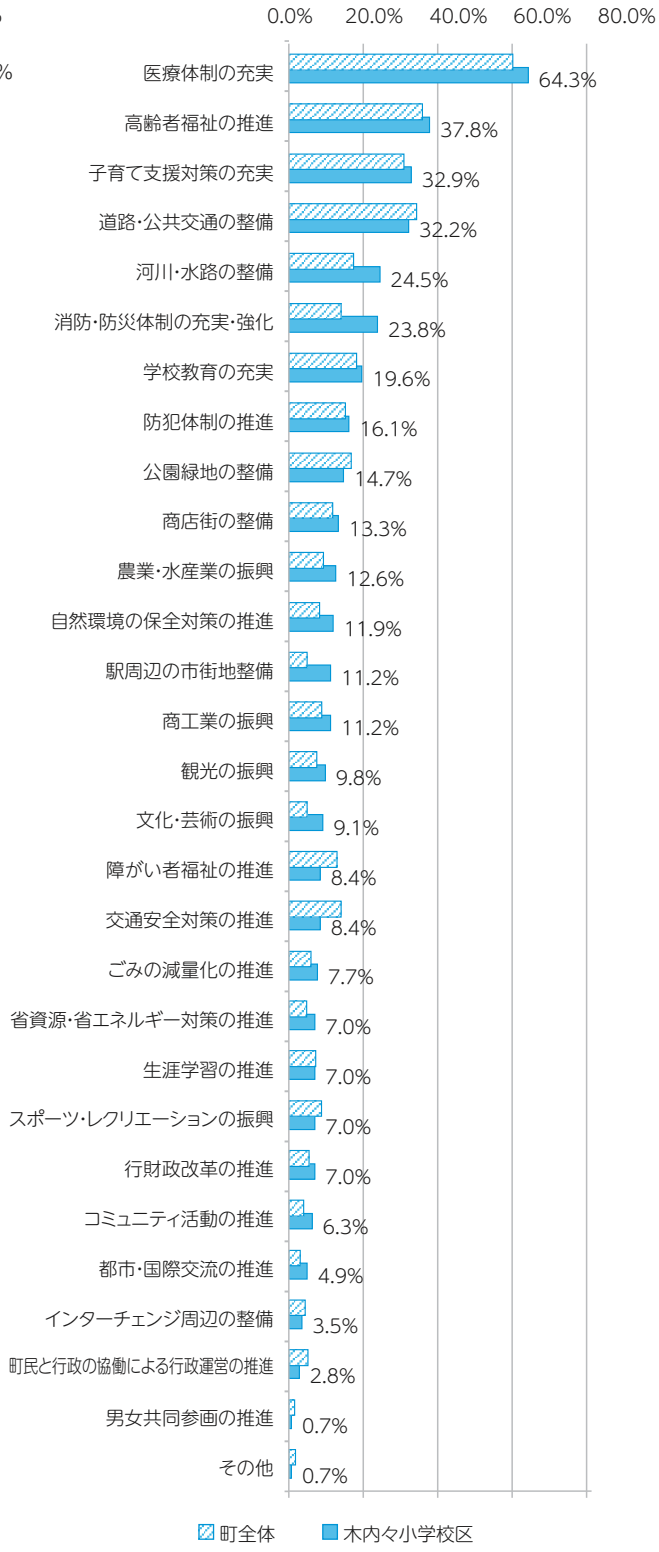
■まちづくりの課題

これからの町にとって、重要なまちづくりの取組（特に重点的に取り組むこと）を把握するため、町民アンケート調査にて5つまで選んでもらいました。

平成29年調査（回答数=117）



令和4年調査（回答数=143）



④ 地域の課題と地域の方向性（木内々小学校区）

◆ 主な課題

主な課題として、次のようなことが挙げられました。

	主な課題	
(1)暮　ら　し	・草地や道路脇等の管理不十分 ・奥入瀬川の河川敷が汚い ・仕事が少なく、収入が安定しない	・農作物や鮭等の特産品も含め町全体の情報発信が不足しており、強化する必要がある
(2)安全・安心	・災害の危険性が少ない一方で、津波に対する奥入瀬川流域に住む町民の不安がある ・必要なところに信号がない	
(3)つ な が り	・一人暮らしの高齢者が多くなっていて、地域コミュニティの維持・運営に不安がある	・人が集まれる場所が少ない ・地域の交流が薄れている
(4)そ　の　他	・イオン周辺だけ盛り上がっている	

◆ 地域の課題を解決するための取組（自助・共助）

課題を解決する地域（協働）の取組として、次のようなことが挙げられました。

	主な課題	
(1)暮　ら　し	・地域の食材資源を使った新商品の開発を検討する ・地域の食材資源を使ったレシピ集を作成する	・地域のボランティア活動を盛んにする（清掃活動） ・河川敷のクリーン運動
(2)安全・安心	・空き商店・空き家を活用した交流の場づくり ・老人クラブの活用等によるいきいきサロンの開催および活性化 ・高齢者の集まりやすい行事を開催し、声掛けと見守りを実施する ・食育を推進 ・子ども向け遊び場マップ作製	・防災教育の徹底（自主防災会の活動強化、若い人を参加させる） ・地域ボランティアによる見守り組織の連携 ・子どもたちの安全確保（登下校、防犯、交通安全） ・町内会長が空き家の持ち主に町の空き家バンク登録を促す
(3)つ な が り	・奥入瀬川を活用した子どもの遊び場づくりを検討する ・祭り等の参加区域を広げる ・地域のスポーツ大会の企画	・子ども会や食育にもつながる子ども参加型の自然体験の開催を検討する
(4)そ　の　他	・若い人の出会いの場を設ける	・学びの場をもっとつくる

※地区別構想策定時（平成30年）の内容となります。

◆ 地域づくり協議会の取組

木内々小学校区では、学区内の町内会代表者の会議にて、「町内会単独では効果に限界のある事業もあり、隣接の町内会との連携が大きな効果を期待できる場合がある。」「通学路の除雪や草刈り等は、１つの町内会で取り組んでも一部しかできないため、学区内広域で連携したほうが良い。」等の意見があり、設立準備会を経て、平成24年４月に「木内々小学校区地域づくり協議会」が立ち上がりました。

構成地区は、木内々小学校内の全地区（三本木、三田、木内々、間木、染屋、木崎、秋堂、中野平、曙、有楽町）です。

○木内々小学校区地域づくり協議会の主な活動

①木内々小学校区の環境整備と児童・生徒の見守り活動

◀通学路や公園の除草作業、道路にはみ出した樹木の伐採作業を実施しています。

②通学路の除雪作業

▲協議会で使用している歩道除雪機。

③危険個所へのカーブミラー・回転灯設置

◀木崎地区に設置したカーブミラー。その他、学区内の危険箇所に設置しています。

④学区内の防犯パトロール

▲関係団体と協力し、夜間の防犯パトロール等を実施しています。

(5)木ノ下小学校区

① 地域の概況

木ノ下小学校区は、町の北西に位置しており、三沢市に隣接しています。

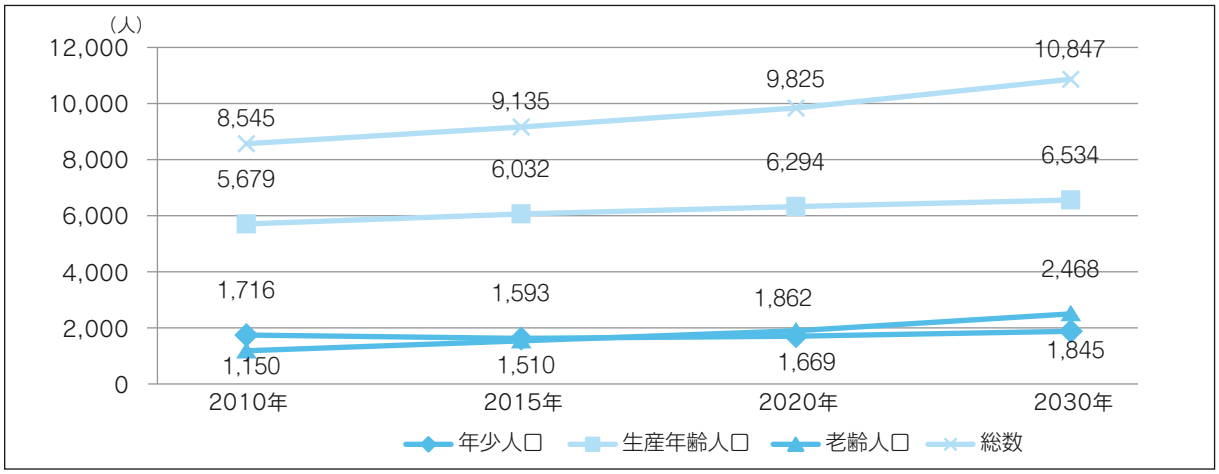
県道８号が南北に走り、青い森鉄道や第二みちのく有料道路が通過しています。また、この地区は、北部丘陵地として広い洪積台地となっており、良質な土壌を活かした畑作や牧場等が盛んに行われてきました。

地区の北部は、平成５年度頃から急激に人口が増加しており、現在も民間活力による宅地・商業施設等が整備されています。この地区の人口は、今後も微増傾向が続くと予想されており、都市基盤施設の適切な配置・整備や優良農地の保全等が行われています。

コミュニティ活動が盛んな地区が多く、伝統芸能の復活やリサイクルの推進等の自主的な活動も多くみられています。

◆人口推移及び推計と高齢化率

木ノ下小学校区の人口は、8,545人から9,825人へと、2010年（平成22年）から2020年（令和２年）の10年間で1,280人増加しました。今後もこの傾向が続くと、2030年（令和12年）には10,847人にまで増加することが予測されます。また、2030年（令和12年）の高齢化率は、22.8%になる見通しです。



年齢３区分 ＼ 年	2010年	2015年	2020年	2030年	増減数（2010年⇒2030年）	増減率（2010年⇒2030年）
年少人口(0～14歳)	20.1%	17.4%	17.0%	17.0%	+129人	−3.1ポイント
生産年齢人口(15～64歳)	66.5%	66.0%	64.1%	60.2%	+855人	−6.2ポイント
老年人口(65歳以上)	13.5%	16.5%	19.0%	22.8%	+1,318人	+9.3ポイント

② 地域の主な公共的施設（木ノ下小学校区）

		木ノ下小学校区
庁舎・公民館等	❶	おいらせ町役場北部出張所
	❷	北公民館
	❸	おいらせ町営霊園
	❹	おいらせ消防署北分遣所
	❺	青葉公園
	❻	住吉地区公園
	❼	木ノ下地区公園
	❽	向山ふれあい広場公園
	❾	鶉久保ふれあい広場公園
	❿	一里塚公園
	⓫	豊栄地区公園
学校・児童館・保育園等	⓬	木ノ下小学校
	⓭	木ノ下中学校
	⓮	木ノ下児童センターみらい館
	⓯	菜の花こども園
	⓰	しもだ幼稚園
	⓱	もりのか保育園

		木ノ下小学校区
医療・保険・福祉施設等	⓲	青い森こどもアレルギークリニック
	⓳	こおり耳鼻科クリニック
	⓴	みさわの森クリニック
	㉑	めとき歯科医院
	㉒	あとむら歯科医院
	㉓	特別養護老人ホーム木崎荘
	㉔	グループホームいこいの森
	㉕	住宅型有料老人ホーム ガーデンプレイスおいらせ
	㉖	住宅型有料老人ホーム Casa di cure VIVACE Uzurakubo
	㉗	住宅型有料老人ホーム マリーゴールド
町内会集会施設等	㉘	向山集会所
	㉙	豊原農事集会所
	㉚	木ノ下ふれあい館
	㉛	鶉久保地区農業構造改善センター
	㉜	古間木山集会所
	㉝	豊栄地区コミュニティセンター

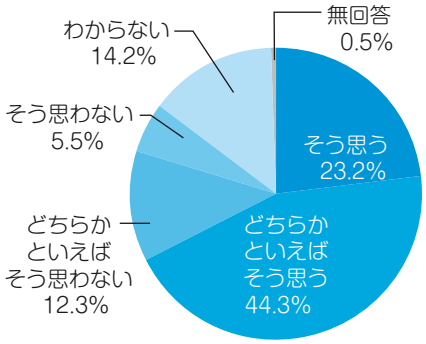
③ 地域の意向（木ノ下小学校区）

◆アンケート調査

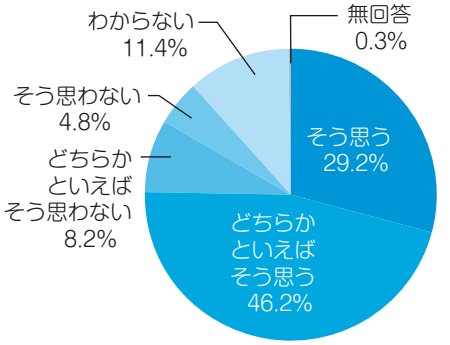
町民アンケート調査

Q．おいらせ町には、長く住み続けられる魅力があると思いますか。

平成29年調査（回答数=366）



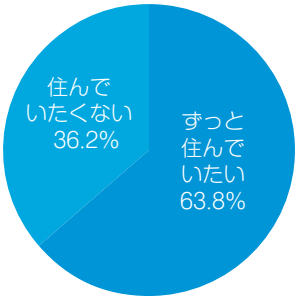
令和４年８調査（回答数=377）



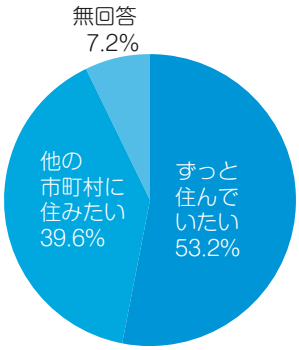
小学生まちづくりアンケート調査

Q．大人になってもおいらせ町にずっと住んでいたいと思いますか。

平成29年調査（回答数=105）



令和４年調査（回答数=111）

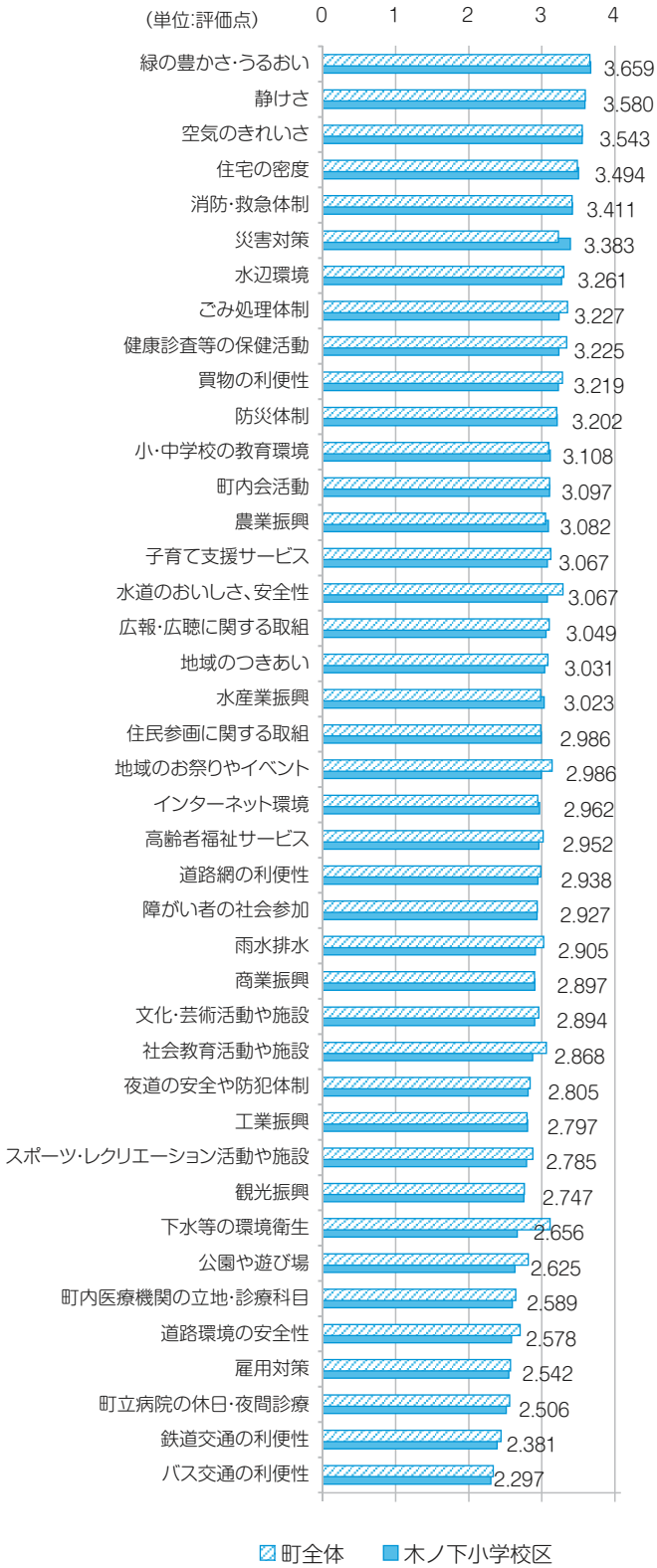


《木ノ下小学校区》

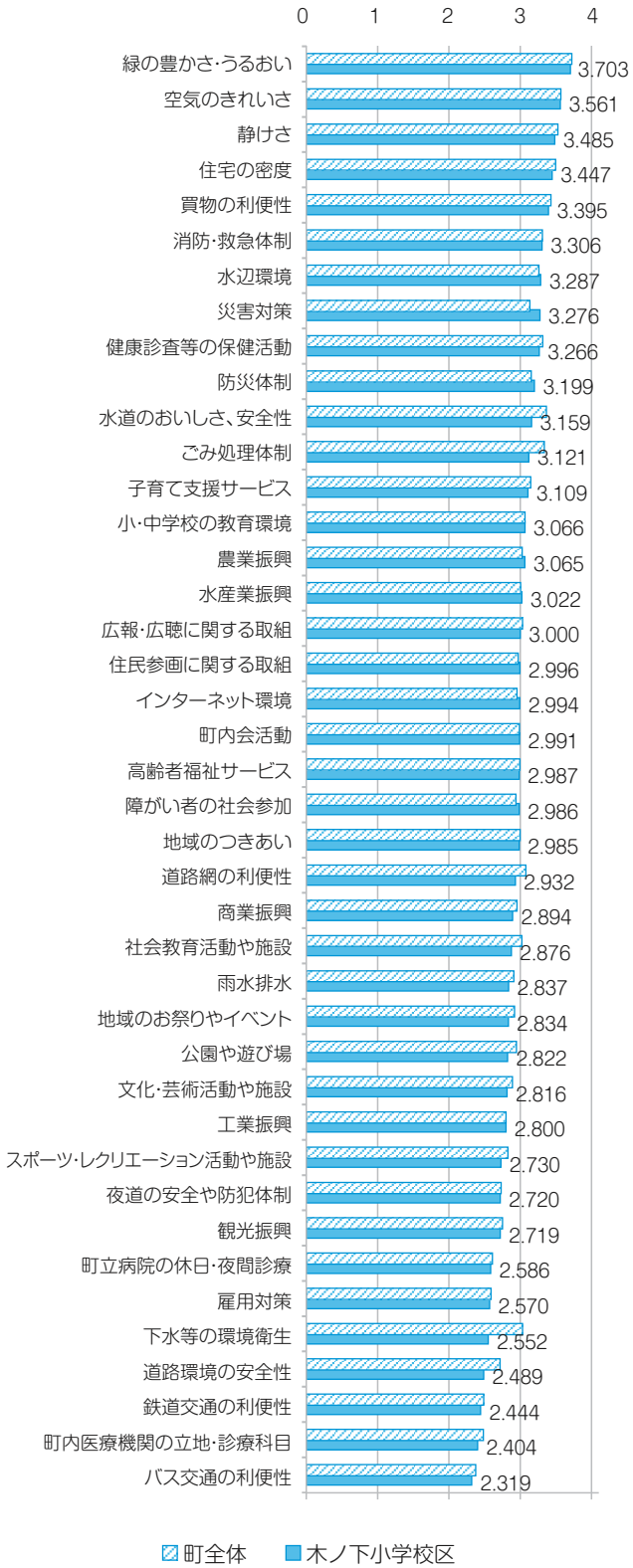
■「住まいの環境」の満足度

町の環境について、どの程度満足しているかを把握するため、町民アンケート調査にて「満足」、「やや満足」、「普通」、「やや不満」、「不満」の5段階で評価してもらいました。

平成29年調査（回答数=366）



令和4年調査（回答数=377）

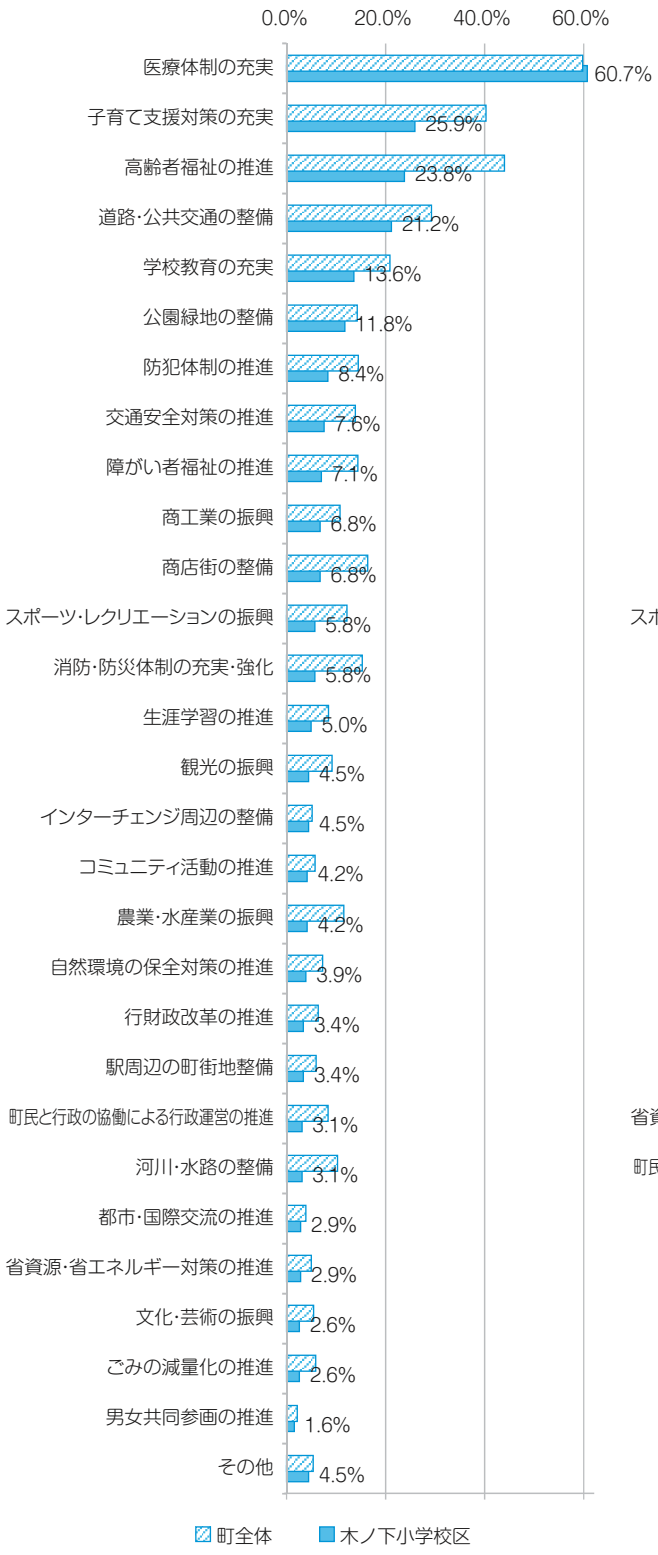


《木ノ下小学校区》

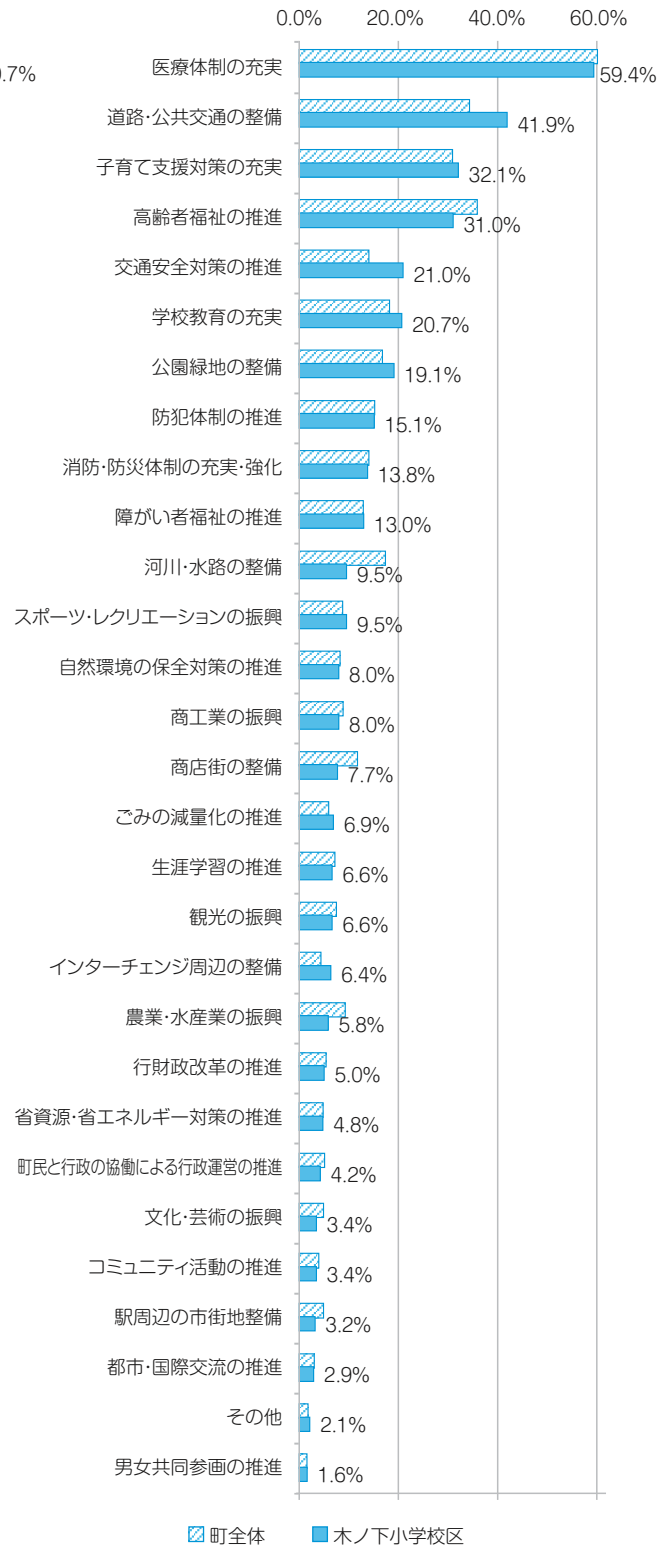
■まちづくりの課題

これからの町にとって、重要なまちづくりの取組（特に重点的に取り組むこと）を把握するため、町民アンケート調査にて5つまで選んでもらいました。

平成29年調査（回答数=366）



令和4年調査（回答数=377）



④ 地域の課題と地域の方向性（木ノ下小学校区）

◆ 主な課題

主な課題として、次のようなことが挙げられました。

	主な課題
(1)暮　ら　し	・空き家の増加 ・道路やインフラの未整備が多い ・公共交通が不便 ・公共マナーを守らない（ペットやごみ） ・子どもが戻ってきたくなるような魅力的な企業が少ない
(2)安全・安心	・消防団や交番がなく不安
(3)つ な が り	・町内会未加入世帯の増加 ・子ども会の加入者の減少 ・一人暮らしの高齢者、高齢者世帯の増加 ・地域交流が少ない ・町のことを考える人が少ない ・町のことを知らない
(4)そ　の　他	・議員が少ない

◆ 地域の課題を解決するための取組（自助・共助）

課題を解決する地域（協働）の取組として、次のようなことが挙げられました。

	主な課題
(1)暮　ら　し	・シェアハウスや健康づくり等で人が集まるように空き家の活用 ・コミュニティビジネスとして、空き家の管理や高齢者支援を検討 ・戸建ての持ち主が空き家になる前に意思表示 ・ペット飼い主のマナー向上のための意識啓発 ・地域として除雪を協力して実施 ・ごみステーションの見守り活動の協力 ・公園の美化活動の推進
(2)安全・安心	・防災について興味を持ってもらえるような防災訓練（小児・乳児心肺蘇生等）を実施 ・消防団や青年団の立ち上げの検討 ・防犯について既存のシステムの活性化（110番の家）
(3)つ な が り	・町内会活動の広報充実 ・町内会の加入説明会の実施 ・高齢者の孤立防止のための見守り活動 ・町内産の農水産物の地産地消の推進 ・サークル活動の活性化 ・母親の交流の場の設置 ・空き家を活用した集会施設の設置検討 ・地域リーダーの育成 ・町定住施策と連携した加入促進
(4)そ　の　他	―

※地区別構想策定時（平成30年）の内容になります。

◆ 地域づくり協議会の取組

木ノ下小学校区では、昭和58年の盆踊り大会の開催をきっかけに、昭和63年から住吉町、若葉、緑ヶ丘、青葉の４地区の町内会（木ノ下小学校区北側）で構成される古間木山連合町内会が立ち上がり、「和の輪」「私達の街・私達の手で！」を基本理念に、正月のどんと焼きや勉強会等の様々な行事を実施してきました。平成24年６月に地域づくり協議会として町に届け出を行い、平成31年４月から「古間木山地区地域づくり協議会」に改称し、現在も活動を継続しています。

○古間木山地区地域づくり協議会の主な活動

①盆踊り大会

▲長年続く人気の行事です。

②どんと焼き

▲どんと焼きとは、飾り終えた門松やお守り等をお焚き上げする行事です。

◆ 広域的な活動や地域づくり協議会の設立推進に係る取組

木ノ下小学校区の南側では、町内会同士による地域課題の共有や意見交換を目的に地域づくり講座や地域づくり座談会を開催しました。

平成30年度	内　　容
■地域づくり座談会 対象地区：向山、豊原、豊栄、苫米地	地域課題の共有や意見交換を行った。 ・町内会活動の継続のため、今から対処が必要。 ・事務局の負担が大きく、行政の支援がないと組織設立はできない。 ・歩けなくなる人が増えそう、広報紙が配布できなくなる。 ・担い手不足（４～５年かけて育成している等）。
令和元年度	**内　　容**
■地域づくり座談会 対象地区：向山、豊原、豊栄、苫米地 ※堀切川、川口、明神下、横道（百石小学校区）と合同で開催。	テーマ「これからの地域づくりへのヒント」 ・地域の良さ、困っている・工夫している点を共有。 ・共同作業に消極的な人が見られる。